

平成 24 年度  
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価  
学校第三者評価

平成 25 年 8 月

富良野市教育委員会

# 目 次

点検・評価の概要	
1、教育委員会事務事業点検・評価	1
2、学校第三者評価	1
3、点検・評価の手法及び公表	1
教育委員会の活動点検・評価	
1、教育委員会の活動の一覧	5
2、教育委員会議	10
3、教育委員会議の評価	11
平成 24 年度教育委員会事務事業点検・評価	
事務事業点検・評価結果一覧	13
学校教育課所管事務事業	15
社会教育課所管事務事業	36
生涯学習センター所管事務事業	58
図書館所管事務事業	61
富良野学校給食センター所管事務事業	65
平成 24 年度学校第三者評価	69
教育行政評価委員会の開催について	
1、教育行政評価委員会	75
2、教育行政評価委員会における意見	76
資料 1 富良野市教育行政評価委員会設置要綱	79
資料 2 教育行政評価委員名簿	80
資料 3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律	80
資料 4 平成 24 年度 富良野市教育行政執行方針	81
資料 5 平成 24 年度 富良野市教育委員会 重点事項	89

## 点検・評価の概要

### 1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)の第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成20年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成24年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として54事業に対する点検・評価を実施しました。

### 2、学校第三者評価

学校評価については、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者(市教育委員会)への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成19年度から試行的に学校評価に取り組み、平成20年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成20年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を、平成24年度学校第三者評価は評価項目16項目、25観点について教育行政評価委員会において実施しました。

### 3、点検・評価の手法及び公表

#### 1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成24年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行いました。

#### 達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのか

を評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

## 2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」づくりを目指すものであります。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成23年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった16項目25観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施し学校第三者評価を行いました。

## 3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

## 4) 評価結果

平成 24 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準 A ~ D の 4 段階で集計を行いました。

## 事務事業評価

第 1 表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D
件 数	23	31	0	0
構成比 (%)	42.6	57.4	0	0

評価基準 A : 実践が進み成果を上げている。

B : 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C : 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D : ほとんど(全く)実践されず、努力を要する。

第 2 表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D
件 数	40	14	0	0
構成比 (%)	74.1	25.9	0	0

評価基準 A : 期待どおりの効果が得られたと判断される。

B : やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C : 期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D : 期待した効果がほとんど(全く)得られなかったと判断される。



第 1 回評価委員会議(5/21)



市立樹海小学校訪問(7/22)



市立樹海中学校訪問(7/22)

## 教育委員会の活動点検・評価

平成 24 年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」、「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

### 1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、定例会及び臨時会があり、偶数月に定例会を開催し、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月 1 回委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内、過去の会議の内容等を市ホームページに掲載しています。

以下、平成 24 年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

#### 1) 平成 24 年度教育委員会会議実施状況

##### (1) 開催回数

定例会：6 回（原則として偶数月第 3 水曜日）

臨時会：7 回（随時）

委員協議会：14 回（原則として毎月第 3 水曜日）

##### (2) 付議件数

内 容	件 数
規則等に関する事	7
議会の議決を経るべき議案に関する事	2
人事に関する事	1
委員の委嘱等に関する事	9
その他	11
計	30

#### 2) 教育委員会会議の開催状況

回	開催日	開 催 内 容
第 2 回 定例会	4 月 27 日 ( 金 )	1) 富良野市スポーツ推進委員の委嘱について 2) 平成 24 年度学校施設の開放事業に係る学校開放主事及び管理指導員の委嘱について 3) 富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について



第4回 臨時会	5月24日 (木)	1) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について 2) 富良野市立学校管理規則の一部改正について 3) 富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 4) 教育バス運送業務規則の一部改正について 5) 富良野市社会教育委員の委嘱について 6) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 7) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について
第5回 臨時会	6月5日 (火)	1) 富良野市教育委員会委員長の選挙について 2) 富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について 3) 麓郷小学校と麓郷中学校の統合(併置校)に関する要望書の受理について
第3回 定例会	6月26日 (火)	1) 麓郷小学校と麓郷中学校の併置校設置について
第6回 臨時会	7月22日 (日)	1) 富良野市立学校教員の不祥事について
第7回 臨時会	7月24日 (火)	1) 富良野市立学校設置条例の一部改正について 2) 招致外国語指導助手就業規則の一部改正について
第4回 定例会	8月22日 (水)	1) 平成23年度富良野市教育行政評価報告について
第8回 臨時会	9月26日 (水)	1) 平成24年度就学時健康診断員の委嘱について
第5回 定例会	10月26日 (金)	1) 富良野市青少年規則に基づく平成24年度表彰者の決定について
第9回 臨時会	11月23日 (金)	1) 富良野市社会教育委員設置条例の一部改正について
第6回 定例会	12月26日 (水)	1) 富良野市立学校施設利用条例施行規則等の一部改正について
第1回 定例会	2月12日 (火)	1) 教育行政執行方針について 2) 富良野市第2次学校中期計画について 3) 平成25年度富良野市社会教育推進計画について
第1回 臨時会	3月12日 (火)	1) 教職員人事の内申について 2) 外国語指導助手就業規則の一部改正について
第2回 臨時会	3月25日 (月)	1) 平成25年度富良野市育英基金・戸倉育英基金育英生の選考について 2) 平成25年度富良野市学校医等の委嘱について 3) 富良野市屋外スポーツ施設設置条例施行規則の一部改正について



## 3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第6回協議会	4月27日 (金)	協議1) 富良野市スポーツ推進委員の委嘱について 協議2) 平成24年度学校施設の開放事業に係る学校開放主事及び管理指導員の委嘱について 協議3) 富良野市学校教育指導委員の委嘱について 報告1) 各小中学校運動会・体育祭について 報告2) 学校施設整備に係る工事等契約について ・東小学校校舎・屋内運動場改築設計委託 ・富良野東中学校校舎耐震補強、大規模改造工事
第7回協議会	5月24日 (木)	協議1) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議2) 富良野市立学校管理規則の一部改正について 協議3) 富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 協議4) 教育バス運送業務規則の一部改正について 協議5) 富良野市社会教育委員の委嘱について 協議6) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議7) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について
第8回協議会	6月5日 (火)	協議1) 富良野市教育委員会委員長の選挙について 協議2) 富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について 協議3) 麓郷小学校と麓郷中学校の統合(併置校)に関する要望書の受理について 報告1) 2012 こどもの図書館まつりの実績について
第9回協議会	6月26日 (火)	協議1) 麓郷小学校と麓郷中学校の併置校設置について 報告1) 平成24年度少年野球国際交流事業について 報告2) 東小学校校舎・屋内運動場改築に伴う配置計画について
第10回協議会	7月22日 (日)	協議1) 富良野市立学校教員の不祥事について
第11回協議会	7月24日 (火)	協議1) 富良野市立学校設置条例の一部改正について 協議2) 招致外国語指導助手就業規則の一部改正について 報告1) 富良野東中学校屋内運動場改築工事に係る契約の締結について 報告2) ふらの青年塾の活動報告について 報告3) 子ども会リーダー研修会(イングリッシュファームデー)について 報告4) 富良野高校普通科単位制に係わる道教委への要望書提出について

第12回協議会	8月22日 (水)	協議 1) 平成23年度富良野市教育行政評価報告について 報告 1) イングリッシュファームデイの開催報告について
第13回協議会	9月26日 (水)	協議 1) 平成24年度就学時健康診断員の委嘱について 報告 1) 平成24年第3回富良野市議会定例会について 報告 2) 携帯電話に関する実態調査報告について 報告 3) いじめ実態調査の結果について 報告 4) 上川管内教育研究会南部地区研究大会について
第14回協議会	10月26日 (金)	協議 1) 富良野市青少年規則に基づく平成24年度表彰者の決定について 報告 1) 少年野球国際交流事業実施報告について 報告 2) 麓郷小学校屋内運動場の改築について
第15回協議会	11月23日 (金)	協議 1) 富良野市社会教育委員設置条例の一部改正について 報告 1) 携帯電話に関する実態調査分析報告について 報告 2) 学校ブックフェスティバル実績報告について
第16回協議会	12月26日 (水)	協議 1) 富良野市立学校施設利用条例施行規則等の一部改正について 報告 1) 第4回富良野市議会定例会について 報告 2) 「子ども未来づくりフォーラム」事業実施報告について 報告 3) フッ化物洗口について
第1回協議会	1月25日 (金)	報告 1) 平成24年度全国学力・学習状況調査結果について
第2回協議会	2月12日 (火)	協議 1) 教育行政執行方針について 協議 2) 富良野市第2次学校中期計画について 協議 3) 平成25年度富良野市社会教育推進計画について 報告 1) 学校施設整備に係る契約について ・麓郷小学校屋内運動場体力度調査委託 ・麓郷小中学校屋内運動場改築設計委託
第3回協議会	3月12日 (火)	協議 1) 教職員人事の内申について 協議 2) 外国語指導助手就業規則の一部改正について 報告 1) 富良野市教育委員の任命について 報告 2) 東小学校校舎屋内運動場改築事業について 報告 3) 麓郷小学校屋内運動場改築事業について
第4回協議会	3月25日 (月)	協議 1) 平成25年度富良野市育英基金・戸倉育英基金育英生の選考について 協議 2) 平成25年度富良野市学校医等の委嘱について 協議 3) 富良野市屋外スポーツ施設設置条例施行規則の一部改正について 報告 1) 第1回富良野市議会定例会について

## 4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月3日 4月11日 4月26日 4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員着任式</li> <li>・転入校長、教頭歓迎会</li> <li>・平成24年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会</li> <li>・学校訪問(樹海中、樹海小、布部小中、東小、富良野西中)</li> </ul>	文化会館 ワインハウス 上川合同庁舎  各小中学校
5月23日 5月24日 5月29日 5月下旬~	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度少年の主張大会</li> <li>・学校訪問(鳥沼小、富良野東中、扇山小)</li> <li>・第18回富良野市少年育成協議会</li> <li>・各小中学校運動会(5月下旬~6月上旬)</li> </ul>	文化会館 各小中学校 図書館 各小中学校
6月1日~ 6月15日 6月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年第2回富良野市議会定例会(6/1~18)</li> <li>・平成24年度富良野市音楽大行進</li> <li>・学校訪問(富良野小、山部中、山部小)</li> </ul>	市役所議事堂  富小グランド 各小中学校
7月23日 7月24日 7月28日 ~30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上川管内教育委員会連合会委員長部会研修会</li> <li>・学校訪問(麓郷小、麓郷中、布礼別小中)</li> <li>・西脇市教育委員表敬訪問、施設見学</li> </ul>	和寒町 各小中学校 市内
8月22日 8月23日~	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動北海道教育委員会</li> <li>・平成24年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会(8/23~24)</li> </ul>	文化会館 根室市
9月4日~ 9月中旬~ 9月27日 9月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年第3回富良野市議会定例会(9/4~14)</li> <li>・各小中学校学校祭、学芸会(9月中旬~11月上旬)</li> <li>・第39回富良野市小中学校音楽発表会</li> <li>・第19回富良野市少年育成協議会</li> </ul>	市役所議事堂  各小中学校 図書館 文化会館
10月10日~ 10月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度富良野市教育委員会教育委員道外視察(10/10~12)</li> <li>・市長と教育委員の懇談会</li> </ul>	滋賀県大津市・草津市 市役所
11月3日 11月8日~ 11月23日 11月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野市条例表彰式</li> <li>・平成24年度上川管内教育委員連合会第2回委員研修会(11/8~9)</li> <li>・平成24年度富良野市青少年表彰式</li> <li>・子ども未来づくりフォーラム</li> </ul>	市役所 美瑛町  文化会館 文化会館

12月4日～	・平成24年第4回富良野市議会定例会 (12/4～14)	市役所議事堂
1月8日 1月13日 1月10日 1月10日 1月18日 1月25日	・平成25年新年交礼会 ・平成25年富良野市成人式 ・平成25年山部地区新年交礼会 ・平成25年東山地区新年交礼会 ・平成25年富良野市新春教育懇話会 ・平成24年度富良野市PTA連合会新年懇親会	文化会館 文化会館 山部福祉センター 東山公民館 ハイランドふらの ハイランドふらの
2月12日 2月26日 2月27日～	・第20回富良野市少年育成協議会 ・上川南部教育委員会教育委員研修会 ・平成25年第1回富良野市議会定例会 (2/27～3/19)	図書館 占冠村 市役所議事堂
3月上旬～ 3月9日 3月13日 3月25日 3月25日	・各小中学校卒業式(3月上旬～中旬) ・富良野東中学校屋内運動場落成式 ・上川管内教育委員会連合会委員長部会 ・教職員離任式 ・校長、教頭惜別式	各小中学校 富良野東中学校 旭川市 図書館 ハイランドふらの

## 2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 前2号に定めるもののほか人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11) 教育長、部長、課長、館長の任免を行うこと。
- (12) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。

- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例及び戸倉育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16) 校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (18) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (19) 児童生徒の出席停止に関すること。

### 3、教育委員会議の評価

#### 1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の承認等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

議案として取り扱う中でも、内容の軽重を吟味・精査し、慎重な審議が必要な案件についてはしっかりと時間をかけて議論することができるよう、資料については事前に資料等を送付し、内容についての検討などの準備を行いました。

#### 2) 学校訪問について

16校ある小中学校を全て訪問しながら、校長・教頭から説明を受けた後、児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

#### 3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

小中学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が分担をしながら教育委員会を代表して出席しました。また、教育委員会が主管する教職員着任式、青少年表彰式、成人式、音楽大行進、少年育成協議会等の行事や式、会議にも出席しました。さらに、

全道、管内、富良野沿線の委員研修会にも積極的に参加するとともに、委員全員による道外の先進地視察（滋賀県大津市、草津市）を行い、委員の自己研鑽に努めました。

#### 4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政を推進しています。

## 平成 24 年度教育委員会事務事業点検・評価

### 事務事業点検・評価結果一覧

所管課	評価項目	細項目	24年度評価		備考
			達成度	効果度	
学校教育	1 市立小中学校配置計画	1 ・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2 学校施設整備	2 ・富良野東中学校校舎耐震補強・大規模改造事業	A	A	新規評価項目
		3 ・富良野東中学校屋内運動場改築事業	A	A	新規評価項目
	3 全国学力・学習状況調査	4 ・全国学力・学習状況調査	A	A	
	4 全国体力・運動能力等調査	5 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	5 幼児教育	6 ・私立幼稚園就園奨励費補助事業	A	A	
		7 ・預かり保育補助事業	A	A	
		8 ・障がい児保育補助事業	A	A	
	6 心の教育	9 ・適応指導教室事業	A	A	
		10 ・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
		11 ・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
		12 ・心に響く道徳教育事業	A	A	
	7 少年育成協議会	13 ・少年育成協議会	A	A	
	8 特別支援教育	14 ・特別支援教育支援員活動事業	B	A	
15 ・特別支援連携協議会事業		B	A		
9 キャリア教育	16 ・富良野市キャリア教育推進会議	B	B		
10 食育	17 ・食育推進事業	A	A		
11 情報教育	18 ・電子黒板等利活用事業	B	A		
12 国際理解教育	19 ・外国語指導助手招致事業	B	A		
13 健康診断事業	20 ・児童生徒、教職員健康診断実施事業	B	A		
14 高校教育	21 ・高校教育の推進	A	A		
社会教育	15 家庭教育	22 ・家庭教育支援事業	B	A	
		23 ・親と子のふれあい事業	B	A	
	16 青少年教育	24 ・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
		25 ・子ども会育成事業	B	B	
		26 ・青少年表彰事業	B	B	
		27 ・青少年補導センター運営事業	B	B	
		28 ・放課後子ども教室推進事業	B	A	
		29 ・学社融合推進事業	A	A	
	30 ・青年活動活性化事業（青年塾）	B	B	新規評価項目	
	17 成人教育	31 ・ふらの市民講座事業	B	B	
	18 高齢者教育	32 ・ことぶき大学運営事業	B	B	
	19 芸術文化	33 ・富良野芸術文化事業協会事業	B	B	
		34 ・子ども芸術鑑賞教室事業	B	B	
35 ・市民総合文化祭事業		B	B		
36 ・ふらの演劇祭事業		B	A		
37 ・舞台塾ふらの事業		B	A		



所管課	評価項目		細項目	24年度評価		備考
				達成度	効果度	
社会教育	20	スポーツ振興	38・スポーツ環境の整備	B	B	
			39・人材及び団体育成	B	B	
			40・スポーツ施設の整備及び管理運営	B	A	
			41・競技スポーツの育成	A	A	
			42・アスリート育成派遣事業	A	A	
			43・子どもスキー技術向上支援事業	A	A	
生涯学習センター	21	文化財保護	44・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
	22	博物館	45・博物館活動推進事業	B	A	
46・自然体験・環境学習事業			B	A		
図書館	23	図書館	47・図書館運営管理事業	A	A	
			48・図書資料整備事業	B	B	
			49・読書活動推進事業	A	A	
			50・子どもの読書推進事業	A	A	
富良野学校給食センター	24	富良野学校給食センター	51・安全安心な学校給食の提供	B	A	
			52・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			53・食に関する指導の推進	B	A	
			54・学校給食費の徴収	A	A	
評価結果：集計			A	23	40	
			B	31	14	
			C	0	0	
			D	0	0	
			計	54	54	

### 達成度の評価基準

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

### 効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画	担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針						
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進み、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくため。	事業年度	開始	終了			
			初回平成17～19年度 平成21年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			-	-	-	-	-
前年度の課題	施設整備については国の予算を見極めて残る3校の整備方針及び優先順位の検討が必要。学校の在り方については、東部地区以外の学校についても単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。						
当該年度の目標	少子化による児童生徒数の減少から、学校の配置計画や規模の適正化などが課題となり、集団活動を通して社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を整える。						
事業の実施状況	平成22年度において市P連より提案された「今後の市内小中学校における教育環境整備の在り方」を受け、市の財政状況を見据えながら市内6校(富小・東小・東中・山部中・樹海小・樹海中)を順次計画的に検討、整備することとし、平成24年度は東中学校校舎大規模改造・屋内運動場改築事業を完了した。 また、平成24年度には東小学校校舎・屋内運動場改築について国の予算を確保し、平成25年度着工・平成26年度完成に向けた準備が整った。 さらに、少子化による児童生徒数の減少を受け、東部地区において今後の学校の在り方がPTA・地域住民により協議され、麓郷小学校・麓郷中学校の併置化合意により、麓郷小中学校の教育環境の整備として屋内運動場改築に向け、国による予算が確保されたことから25年度において整備を着手する。また、布礼別地区においても、PTA・地域住民の協議により中学校を閉校し、26年4月からは富良野東中学校への校区変更希望での基本合意を得たことから、今後、要望等の取り纏めを行い、協議を重ねる。						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	A	A	A	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	施設整備については国の予算を見極めて残る学校の整備方針及び優先順位の検討が必要。学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。 樹海小学校校舎は、昭和55年度建築であるので、耐震2次診断を実施し、今後の施設整備を検討する必要がある。						
今後の取組み	改 善 策						
	麓郷・布礼別地区の学校については方向性が定まったことから、それぞれの学校の特徴を活かした学校活動の実践に向けサポートを行う。 引き続き、児童生徒数の推移やPTA及び地域の意向を十分に踏まえながら、学校の在り方の協議を進める。 樹海小学校耐震2次診断調査の実施。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野東中学校校舎耐震補強・大規模改造事業						
事業の目的・概要	耐震診断の結果、校舎の耐震性能不足が判明（Is値0.42）したため、耐震補強工事を実施する。 また、建築後34年以上が経過しており老朽化が著しいことから、校舎の大規模な改修をあわせて実施し教育環境の向上を目指す。	事業年度	開始	終了			
			平成22年度	平成24年度			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			-	-	2,573	3,150	158,466
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震性能が不足している校舎に補強工事を施し、生徒が安心して学習できる環境を整備するとともに、避難場所としての安全性を高めるため、耐震補強工事を実施する。</li> <li>老朽化した校舎を改修し、学習環境を向上させるため、大規模改造工事を実施する。</li> </ul>						
事業の実施状況	<p>耐震補強</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震壁（厚200mm）の追加 19箇所</li> </ul> <p>大規模改造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋根及び外壁の塗装</li> <li>給水管更新</li> <li>玄関スロープ設置</li> <li>玄関及び玄関ポーチの防滑化</li> <li>暖房器具更新</li> <li>床改修</li> <li>給食搬入口の移設</li> <li>高圧変圧器及び高圧ケーブルの更新 など</li> </ul> <p>国庫補助 学校施設環境改善交付金 60,843,000円</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証
	達成度	-	-	-	-	A	
	効果度	-	-	-	-	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	今回の耐震補強工事により躯体の耐震化が図られた。今後は、改築を必要としない学校施設の小規模部材（照明器具、内壁、天井等）の点検・耐震化を検討する必要がある。						
	改善策						
	非構造部材の耐震化にあたっては、富良野市立学校全体の計画をもって実施すべきである。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課					
事務事業名	富良野東中学校屋内運動場改築事業							
事業の目的・概要	平成23年度に実施した耐力度調査で、構造耐力及び保存度において建物が危険な状態であると判定されたため、屋内運動場を改築する。 屋内運動場の耐力度不足 耐力度点数 3,308点	事業年度	開始	終了				
			平成23年度	平成24年度				
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24	
			-	-	-	13,335	367,300	
前年度の課題	【新規点検・評価事業】							
当該年度の目標	危険な状態にある屋内運動場を改築し、生徒が安心して学習できる環境整備を行うとともに、災害時に避難場所として利用する際の利便性・安全性を高める。							
事業の実施状況	<p>富良野地域産の間伐されたカラマツを原料にした集成材を主体構造部に使用。</p> <p>構造等 木造 平屋建 1,281㎡</p> <p>諸室 アリーナ、ステージ、器具庫(3室)、放送室、機械室、更衣室(男・女)、トイレ(男・女・障がい者対応可能多目的)、渡り廊下</p> <p>主要設備 高効率暖房機、高効率照明器具、外部電力入力装置、車いす対応水飲み、玄関スロープ 他</p> <p>国庫補助 公立学校施設整備費国庫負担金 9,612,000円 学校施設環境改善交付金 195,236,000円</p>							
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証	
	達成度	-	-	-	-	A		安全性が不足していた屋内運動場を改築したことにより、授業や部活動、学校開放事業等の充実が図られただけでなく、避難所としての安全性や利便性も向上した。 地域の木材を使用したことで、地場産業の振興にも一定の効果があった。
	効果度	-	-	-	-	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	富良野東中学校の屋内運動場を改築したことにより、躯体及び非構造部材(照明器具、内壁、天井等)の耐震化が図られたが、改築を必要としない学校施設の非構造部材について点検・耐震化を検討する必要がある。							
	改 善 策							
	非構造部材の耐震化にあたっては、富良野市立学校全体の計画をもって実施すべきである。							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			国費	国費	国費	国費	国費
前年度の課題	学校支援ボランティアによる読み聞かせや朝読書など特徴的な取組みが確立されつつあるが、さらなる学力向上に向けたより一層の指導方法の改善等が必要である。今後もより一層の基礎・基本の定着と習得した知識・技能を活用する発表の場を多くし、学力の向上を図ることや、学ぶ意欲を高める授業の工夫改善と公開授業を積極的に進める必要がある。						
当該年度の目標	児童生徒の学力の向上と状況調査						
事業の実施状況	<p>実施日 平成24年4月17日(火)</p> <p>実施対象及び人数 小学6年生:215名 中学3年生:216名</p> <p>実施教科 国語、算数・数学、理科</p> <p>学力調査の結果は、小学校では、国語・算数の「知識」に関する問題及び理科は、全道平均正答率と同等にある。中学校では、国語・数学の「知識」「活用」に関する問題及び理科、すべてにおいて全道平均正答率を上回っている。</p>						
評価	H20 H21 H22 H23 H24					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	A	A	A	A	言語活動を重視した授業、演劇を通じた表現活動等により、自己表現や協調性が培われている。また、表現教育は、反復練習(学習)や集中力アップ等の効果が期待でき、学力向上・コミュニケーション能力向上につながっている。
	効果度	B	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	改訂予定の学校教育中期計画にも具体的に位置づけをし、確かな学力向上をめざして、これまで以上に授業改善及び授業公開と家庭学習を含め、望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。						
	改善策						
	調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、児童生徒の学力向上に取り組む。指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員等外部人材活用事業による時間講師の配置によるチームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の目的・概要	子どもの体力が低下している状況を踏まえて、国が全国的な子どもの体力状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検討し、その改善を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
国費	国費		国費	国費	国費		
前年度の課題	各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 冬期間における体力の低下も見られることから、スキー等を通しての活動の充実が必要である。						
当該年度の目標	児童生徒の体力の向上と現状調査						
事業の実施状況	平成24年度は、4月から7月末の間に調査を実施 ・抽出校 3校(小学校:2校 中学校:1校) ・実施対象 小学校5年生:14名、中学校2年生:11名 ・実施種目 小学生:握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ 中学生:握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ  体力合計点数では小学生男子が全道平均を若干下回るが、それ以外女子・中学男女については全道・全国平均より高い状況にある。また、児童・生徒への質問紙調査では、小学生男女・中学生男子で「スポーツが好き」及び「やや好き」と回答している。						
評価						達成度・効果度の検証	
		H20	H21	H22	H23	H24	
	達成度		A	A	A	A	
						各学校・地域を挙げた体力づくり、スポーツ少年団活動、部活動が継続的に取り組まれており、各種大会でも優秀な成績を上げている。	
効果度		A	A	A	A		
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 調査結果を把握、分析し、各学校における体育・健康に関する指導などの改善を図る必要がある。						
	改 善 策						
小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域スポーツ関係団体と連携しながらスポーツにふれ合うことで「知育・体育・徳育」の調和のとれた成長を促進する。 家族の約束7カ条の推進及び「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動を通じて食育を通じた体力向上を図り、「チャレンジデー」などの体力向上のイベントへの積極的な取組みを引き続き推進する							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	私立幼稚園就園奨励費補助事業						
事業の目的・概要	幼稚園教育の普及・充実と子育て支援を図るため、国の基準に準じ、保護者の経済的負担軽減を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			継 続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
		33,159	34,554	35,943	39,371	39,393	
前年度の課題	国の制度で基準により実施している。						
当該年度の目標	保護者の負担軽減を図り、幼稚園教育を充実する						
事業の実施状況	<p>国の基準(毎年改正)幼稚園就園奨励費補助金交付要綱(平成10年6月17日文部大臣裁定) ・園則に定める入園料及び保育料を上限に補助金を交付し、保護者の子育てにおける経済的負担を軽減する。 平成24年度支給者計 355名 (平成23年度 375名)</p> <p>平成22年4月に国の制度改正が行われ、従来の条件(兄・姉が幼稚園児の場合)に加え、新条件(兄・姉が小学校1~3年生の場合)が加えられている。</p> <p>通園する9割が対象となっている。</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 昨年以上の補助額の増加により、保護者の負担の軽減がされた。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	国の制度で基準により実施している。 本制度に関しては、国の補助率を1/3以内としているが、実際には20%強の補助金しか市町村に交付されていない。道等を通じて地方に過重な負担がかからないように働きかけが必要である。						
	改 善 策						
	国の制度で基準により実施している。						



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	預かり保育補助事業						
事業の目的・概要	子育て支援を目的とし、また保護者の就業を支援するため、幼稚園における預かり保育の充実を図る。	事業年度	開 始	終 了			
				継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,257	1,229	1,221	1,413	1,369
前年度の課題	子育て支援のさらなる充実						
当該年度の目標	預かり保育の充実により、保護者ニーズに対応した幼稚園教育を実現する						
事業の実施状況	<p>幼稚園に対して預かり保育の充実を図り、保護者負担の軽減を図るため、預かり保育対象園児の人数及び延長時間実施の日数並びに、土日・長期休業期間の実施日に対して補助金を交付。</p> <p>総園児数414名に対し111名(27%)が利用し、市内4園で8学級が開設されている。 1学級35名を限度に1名以上の教員を配置することを条件に補助。</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 預かり保育を希望する保護者のニーズに応じて実施されており、預かり保育利用料についても安価で行われている。
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	子育て支援のさらなる充実						
	改 善 策						
	子育て支援のさらなる充実を支えるための予算の確保						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	障がい児保育補助事業						
事業の目的・概要	私立幼稚園における障がい児教育の充実と保護者負担の軽減を図る。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			400	700	800	600	400
前年度の課題	幼稚園、保育所を含めた 障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。						
当該年度の目標	引き続き、障がい児の幼児教育を受ける機会を確保する。						
事業の実施状況	<p>5月1日現在に在籍している障がい児に対して教育を実施するため補助金を交付</p> <p>園児一人当たりの交付額 100,000円</p> <p>平成24年度は市内2園の4名が対象</p> <p>特別支援連携協議会にて、各小学校のコーディネーター、相談員等が幼稚園・保育所を訪問し、就学時のスムーズな引継ぎが行える取組みを実施。</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A	障がい児の幼児教育を受ける機会が確保できた。市特別支援教育マスタープランに基づき、専門家チームが就学前相談や指導等を行い、連携強化を図っており成果が上がっている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	引き続き、幼稚園、保育所を含めた障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。						
	改 善 策						
特別支援連携協議会の取組みにより、障がい児の幼児教育のさらなる充実や義務教育への引継ぎを円滑に行う。 幼・保・小との連携を図るため「育ちと学びのファイル すくらむふらの」を活用し、円滑な就学支援を行う。							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の目的・概要	<p>不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、保護者、学校、関係機関等との連携のもと学校への復帰訓練と、基本的な生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。 不登校児童への支援及び不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る。 ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校関係機関との連携強化に努める。 焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進</p>	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
事業費(決算) (単位:千円)			H20	H21	H22	H23	H24
			1,800	1,800	1,800	1,800	2,592
前年度の課題	不登校の市内の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
当該年度の目標	不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、学校への復帰訓練。						
事業の実施状況	<p>不登校児童への支援・指導内容の充実。 不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図った。 ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校・関係機関との連携強化に努めた。 平成24年度から、より専門性を持った個々の課題に対応できる人材(臨床心理士等)を確保し、スクールソーシャルワーカーの機能を持たせ、きめ細やかな支援ができる体制を整えた。 焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進</p>						
評価	H20 H21 H22 H23 H24					達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A	ひとり一人の実態に即した教育相談・学校支援や多様な体験活動を行い、「ひきこもり」の解消、学校復帰、社会的な自立心の育成のため、生活意欲を培うとともに、基礎的な学力の定着・基本的な生活習慣の改善・豊かな情操・社会性を育む指導に努めている。併せて、保護者に対する支援や相談に重点を置いている。
効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>不登校の市内の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。</p>						
今後の取り組み	改 善 策						
	<p>周知の手段として「適応指導教室」での取り組みなどを諸会議での発言や活動内容のチラシなどを配布するとともに、気軽に教室を訪問してもらうよう、学校等への周知を深める。適応指導教室に通級している児童生徒が抱える問題の多くは、家庭などにも起因していることから児童生徒及び家庭に対する一貫した支援が必要となっていることから指導員の充実、家庭、学校、関係機関との連携が必要。</p>						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助	事業年度	開始	終了			
			平成17年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			道費	道費	道費	道費	道費
前年度の課題	各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にあることから引き続き、教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
当該年度の目標	生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。						
事業の実施状況	生徒へのカウンセリング 教職者に対する助言・援助 保護者に対する助言・援助 H24年度実績 2校(中学校) 日数・時間 30日240時間、来談者209名、相談件数199件						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	配置された学校で生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けた実績もあがり、生徒の心のケア、保護者との相談業務に着実な成果が上がっている。
効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にあることから引き続き、教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
今後の取り組み	改 善 策						
	スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、こうした事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進めるとともに、小学校に子どもと親の相談員の配置を継続する。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業						
事業の目的・概要	児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図る。 相談員を小学校に配置 児童の話し相手・悩み相談 家庭・地域と学校の連携の支援 その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開始	終了			
			平成16年度	継続			
事業の目的・概要	相談員を小学校に配置 児童の話し相手・悩み相談 家庭・地域と学校の連携の支援 その他の学校の教育相談活動の支援	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			374	374	374	1,644	1,661
前年度の課題	問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応が必要である。また、現在は富良野小学校、扇山小学校、東小学校に配置しており、よりきめ細やかな対応が必要となってきた。						
当該年度の目標	いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。						
事業の実施状況	子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小学校、扇山小学校、東小学校）  児童の話し相手・悩み相談 家庭・地域と学校の連携の支援 その他の学校の教育相談活動の支援 中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ316名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など）						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	教室とは違った、親しみやすく和める場所として開放したことにより、訪れる児童が多い。気になる児童や相談に訪れた児童の様子について担任に報告することで、きめ細かな見守りや相談活動を行うことができた。
効果度	B	B	B	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応が必要である。また、現在は富良野小学校、扇山小学校、東小学校に配置しており、よりきめ細やかな対応が必要である。						
今後の取り組み	改 善 策						
	親しみやすい場所を開放したことにより、来談児童が多いことは、児童に対する潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として専門的知識を有した者（臨床心理士等）の配置が引き続き必要。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	道徳教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道徳教育事業						
事業の目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから、規範意識や倫理観、生命を大切にし他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を特別非常勤講師として任用し、道徳の時間等において子どもに心に響く授業を推進し、道徳教育の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
				学社融合推進事業費活用	78	65	69
前年度の課題	引き続き、富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
当該年度の目標	命を大切にすることを心がける教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実						
事業の実施状況	<p>富良野ゆかりの講師による道徳教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野商工会議所 会頭 荒木毅 実施校 3校 演題「職業観と人間の生き方」</li> <li>・富良野自然塾 副塾長 林原博光 実施校 2校 演題「環境教育と人間の生き方」</li> <li>・静琴書道学院 主宰 大橋静琴 実施校 4校 演題「書を通しての生きざま」</li> <li>・北海道大学 農学研究院長 松井博和 実施校 2校 演題「生きるとは何か・学ぶとは何か」</li> <li>・旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座 教授 岩崎 寛 実施校 1校 演題「限りある命を生きて～風のガーデンで伝えたかったこと～」</li> </ul>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証
	達成度		B	A	A	A	
	効果度		B	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	引き続き、富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
今後の取り組み	改 善 策						
	学校と講師の日程調整などを円滑に行いながら、多くの学校で富良野にゆかりのある講師による道徳教育を推進するとともに、研究指定校などの取り組みを積極的に行う必要がある。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	少年育成協議会	担当課	学校教育課				
事務事業名	少年育成協議会						
事業の目的・概要	いじめや不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策などについて、教育委員会・学校・PTA・関係機関などが連携して学校・家庭・地域でのネットワーク化を図り、日常的に情報交換を行い、迅速かつ確に対応する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成18年度		継続		
前年度の課題	関係機関との連携を図り情報を共有して取り組んでいるが、いじめ対策、不登校対策、登下校時の安全対策、虐待防止対策など各関係機関や団体の事例発表、情報交換の場となっている。今後は相互に連携した取り組みを進める必要がある。	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
当該年度の目標	地域で連携し子どもたちの安全・安心の推進。						
事業の実施状況	<p>市内19の関係機関・関係団体が協議会を開催し、情報共有する中で子どもたちの安全な生活環境の確保に努める。 5月29日、9月28日、2月12日開催</p> <p>協議会構成団体                      ・富良野市校長会 ・富良野市PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校                      ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員                      ・連合町内会協議会 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会                      ・生徒指導連絡協議会 ・富良野地方石油業協同組合 ・エクウエート富良野                      ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部こども未来課 ・家庭児童相談室                      ・社会教育委員会 ・富良野市教育委員会</p>						
評価			H20	H21	H22	H23	H24
	達成度	A	A	A	A	A	達成度・効果度の検証 各関係機関が連携し、ネットワーク化を図るにより安全対策の推進につなげることができた。また子ども達の安全な地域づくりのために、情報を共有し各団体での取組に活かすことができた。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	各関係機関との連携を図り情報共有して取り組んでいるが、いじめ対策、不登校対策、登下校時の安全対策、虐待防止対策など各関係機関や団体の事例発表、情報交換の場となっている。今後は相互に連携した取り組みを進める必要がある。						
	改 善 策						
各関係機関が取り組んでいる事業を相互連携した取り組みとして、更なる連携・情報交換を進めていく。							



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援教育支援員活動事業						
事業の目的・概要	市特別支援教育マスタープランに基づき、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への教育的対応がより求められている。こうした児童生徒に対する日常生活や学習支援、安全確保などの学習活動上のサポートを行う。	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			5,590	6,371	7,711	10,498	13,355
前年度の課題	困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。						
当該年度の目標	障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進						
事業の実施状況	<p>配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を整備。                  配置支援員 富良野小4名、扇山小3名、東小3名、山部小1名、東中1名の計12名                  (平成23年度 計10名)                  対象児童 212名(平成23年度 184名)</p> <p>特別支援教育支援員研修会等の実施                  平成24年7月18日開催 12名</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 各学校のコーディネーターとの関わり、担任との情報共有の部分で課題が見られたが、改善しながら適切な支援に取り組むことができた。また、日常生活や学習への支援も担任との調整を行いながら推進してきている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 増加し続ける対象児童生徒数に対する支援員の配置基準の検討。 各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。						
	改 善 策						
研修・講習会に参加し、困り感を抱える児童生徒への適切な支援を行えるよう、更なるスキルアップを行う。 各学校が抱える課題を連携会議等、教育、福祉部門で共有しながら、課題解決ができる環境を整備する。 就学指導を含めた特別支援教育アドバイザーの有効活用を図る。							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援連携協議会事業						
事業の目的・概要	市特別支援教育マスタープランに基づき、全ての幼児・児童・生徒が、障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら、夢と希望を持って心豊かに、たくましく育ち合う教育の充実を図る。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学指導)を設置	事業年度	開始	終了			
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
		227	237	238	177	94	
前年度の課題	困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携が必要。						
当該年度の目標	障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進						
事業の実施状況	組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チームスタッフの増員) 富良野市特別支援教育マスタープランの検証と評価 医療・福祉等関係機関との連携 就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月15日、10月22日 研修会の実施 WISC - 研修 8月13日 27名 道立特別支援センター研修会 8月28日 79名						
評価	達成度・効果度の検証						
		H20	H21	H22	H23	H24	
	達成度	B	B	B	B	B	
効果度	A	A	A	A	A		
特別支援教育支援員の増員により、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進を図ることができた。組織体制の強化として専門家チームスタッフを小学校のコーディネーターが兼務し児童の把握・理解がスムーズになった。							
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携と共通認識により引継ぎが必要。						
	改 善 策						
就学相談を含めた相談支援体制の更なる強化が必要であり、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解をしていく。 富良野市特別支援教育マスタープランの検証及び評価と見直しを検討。							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推し進めていく必要がある。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
前年度の課題	富良野市キャリア教育推進会議がマンネリ化してきている。 新学習指導要領全面实施に向けて、キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。						
当該年度の目標	児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観の育成を図る。						
事業の実施状況	職場体験実施校 中学校：7校 高等学校：2校 関係機関等との連携 ・富良野商工会議所により事業所紹介 ・ハローワーク旭川による職業講話の斡旋						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証  職場見学や職場体験学習等は、授業では味わえない経験ができていますが、キャリア教育を教育活動全体を通じた活動となっていない。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。						
	改 善 策						
今後取り組み	富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、学校と家庭・地域・事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。 各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。						

## 平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育てていくことを目的として、「子どもたちのための食育ガイドライン」を基に食育推進を行う。	事業年度	開 始	終 了			
			平成20年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			32	33	33	35	4
前年度の課題	各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。						
事業の実施状況	平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で全員に配布。  栄養教諭(2名)の配置。  栄養教諭による食育指導と啓発活動。  広報等を通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証  「子どもたちのための食育ガイドライン」等をホームページに掲載し、広く市民に紹介。  概略版の作成・配布により、児童生徒及び保護者へ啓発。
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。						
	改 善 策						
	健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う。 栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝 早起き 朝ごはん みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	電子黒板等利活用事業（H20、21年度は教育用コンピュータ整備事業）						
事業の目的・概要	電子黒板等の教育情報機器の活用は、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、教員の授業研究・授業公開と併せて、電子黒板活用等による授業を展開することにより児童生徒の学力内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開始	終了			
			平成21年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			7,613	12,776			
前年度の課題	市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。また、さらなる電子黒板の活用のためデジタル教材の導入に向けた教材予算の確保も必要である。						
当該年度の目標	教員による授業研究及び公開授業の推進と児童生徒の学習内容への理解向上						
事業の実施状況	デジタル教科書等により電子黒板を活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。 市教育研究会情報教育班や校内研修等を実施し、電子黒板等の教育情報機器活用方法の理解及び実践を図る。 新学習指導要領改訂に伴う教科用図書採択に合わせたデジタル教科書の購入。 ・H23 小学校46セット 中学校14セット ・H24 小学校19セット 中学校2セット 社会科副読本のデジタル版を制作 iPadを全小中学校に導入 上川管内教育研究会及び市教育研究会 ・H24年10月4日 ICTを活用した授業展開 北海道学校体育研究会 ・H24年11月9日 ICTを活用した授業展開						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 デジタル教科書等の活用により、教科指導の幅が広がり、児童生徒の学習意欲の向上が図れる。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。また、デジタル教材の導入に向けた教材予算の確保も必要である。 iPadのアプリ教材の購入方法の検討。						
今後の取り組み	改 善 策						
	平成24年度に改訂した社会科副読本のデジタル版の活用を図る。 iPadを含めた情報セキュリティの確立。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業						
事業の目的・概要	英語に慣れ親しみ、日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成7年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			7,914	10,295	13,795	14,220	14,441
前年度の課題	<p>新学習指導要領に対応するため小学校への派遣により学習意欲向上を図っているが、児童の積極的なコミュニケーション能力の向上も必要である。</p> <p>小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要である。</p> <p>平成25年度から英語が話せる富良野っ子をめざした指導体制の充実が必要。</p>						
当該年度の目標	<p>児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養い外国文化や生活習慣を学び、国際理解教育を英語力の向上から深める。</p>						
事業の実施状況	<p>JETプログラムによる外国語指導助手を3名、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計4名を配置し、市内小学校・中学校に派遣して英語教育、総合的な学習時間等で指導する。</p> <p>JETプログラムによる外国語指導助手の更新時にあたり、「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から1名を独自採用する。</p> <p>外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と指導助手との連携を図っている。</p> <p>「英語が話せるふらのっ子」の推進に向けた取組みを試行的に実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における朝の英語活動を一部で実施</li> <li>・えいごLANDの実施・・・扇山小学校、東小学校</li> <li>・イングリッシュ・サマーキャンプの実施・・・平成24年8月4日～5日</li> <li>・社会科副読本を制作・・・英語版ムービー「ふらの」</li> </ul>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	外国語活動推進委員会にて、推進体制や指導形態のため担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による体制が整備されつつある。 「英語が話せるふらのっ子」を試行的に取り組んだ小学校では、英語に触れる機会が増大した。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	<p>小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要である。</p> <p>「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。</p> <p>イングリッシュキャンプの実施については、社会教育課との連携による充実が必要。</p> <p>小学校における朝の英語活動を全小学校で実施する。</p>						
今後の取組み	改 善 策						
	<p>小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、放課後の時間に「えいごLAND」など気軽に英語とかわれる環境づくりを行う。</p> <p>イングリッシュ・キャンプなどの事業を取り入れコミュニケーション能力向上を図っていく。</p> <p>「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続する。</p>						



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の目的・概要	<p>学校保健安全法に基づき、健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。</p> <p>児童生徒の健康診断 = 毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。                      教職員健康診断 = 学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。                      就学時健康診断 = 翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。</p>	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
				9,738	9,985	9,616	9,489
前年度の課題	<p>児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。                      児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。                      教職員の健康診断受診率100%の達成と健康管理への意識の向上が必要。</p>						
当該年度の目標	児童生徒の健康診断の完全実施						
事業の実施状況	<p>児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき毎学年定期に実施。</p> <p>教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。                      ・平成24年度受診状況 対象者214名中 205名受診(受診率96%)                      ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施</p> <p>就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施。                      ・平成24年度 就学児童 191名実施                      ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	<p>達成度・効果度の検証</p> <p>児童生徒の各種検診の実施により疾病の予防と早期発見につながっている。                      教職員の受診率は100%となっていないが、高い水準で実施が行われている。</p>
	達成度		B	B	B	B	
	効果度		A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。                      児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。                      教職員の健康診断受診率100%の達成と健康管理への意識の向上が必要。</p>						
	改 善 策						
今後の取り組み	<p>児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。                      教職員への受診の案内を年2回、随時未受診者への個別の呼びかけを引き続き行う。</p>						



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	高校教育の推進					
事業の目的・概要	中・高の相互連携による教育振興と魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開始	終了		
			平成19年度	継続		
	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
前年度の課題	学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。 学力向上に向けて小学校との連携も必要である。					
当該年度の目標	中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。					
事業の実施状況	<p>富良野市中高学校経営連絡協議会 中学校・高等学校が生徒指導・進路指導などの今日的な教育課題について相互に連携し、富良野地区の高等教育の充実に向けて協議する。</p> <p>学力向上プロジェクトチーム 市教研及び上教研において、高校の教員も参加し相互連携を図り、併せて学力向上のための指導内容、方法の工夫改善等を研究する。 富良野高等学校の単位制導入に向けた準備。</p> <p>【コミュニケーション教育(表現～演劇)】 ・富良野市教育委員会が主催する富良野G R O U Pを講師とした「教員研修会」に富良野高等学校から2名参加した。</p> <p>【自然環境教育】 ・富良野の自然や環境を学ぶ科目の設置に向け、富良野自然塾との打合せ機会を設定した。</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	H24
	達成度	A	A	A	A	A
効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。 学力向上に向けて小学校との連携も必要である。					
	改 善 策					
学力向上プロジェクトチームによる、具体的な中高連携の検討、小グループ組織編製の検討を行う。 より多くの教員が授業交流できるように検討する。 中高の会議で話題となったことを小中の会議で伝えていく。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	家庭教育支援事業						
事業の目的・概要	幼児、児童の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成9年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			314	290	226	168	256
前年度の課題	各関係機関、特に市P連との連携を通じて家庭教育に関する学習機会を提供しているが、家庭教育に関して関心の薄い保護者が依然としており、参加しやすい環境づくりと学習内容の検討が必要である。 育児や子育てに積極的に係る父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりが必要である。 家庭教育ハンドブックをはじめ、各関係機関で発行している冊子等を活用し、家庭の教育力を高めることが必要である。						
当該年度の目標	家庭の教育力を高めるための学習機会の充実						
事業の実施状況	家庭教育セミナー(延3回 96名参加) ・布部地区(会場:布部小中学校)子どものこづかいと親子の関わり方 10/28 25名 ・東山地区(会場:樹海小学校) 「子どもがやる気になる魔法の質問とアロマクラフト体験講座 11/29 25名 「樹海地区ハートでトーク」 12/12 46名 樹海小学校 家庭教育講演会(延10回 152名参加) ・ママたちの子育て塾「こどもたちに学ぶ家庭教育講座」6/22~10/22 延7回 52名 ・「ケータイ・インターネットのトラブルから子どもたちを守るために」 2/25 24名 文化会館 18名 樹海小学校 ・「家庭内コミュニケーション講座」 10/25 58名 西中学校 家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布 ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、家庭教育に関して関心の薄い保護者が依然としており、参加しやすい環境づくりや学習内容の検討が必要である。 育児や子育てに積極的に係る父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
	改 善 策						
	引き続き多くの親が参加する機会を活用し、学習機会の提供やその内容充実に努める。 父と子のふれあい交流を推進し、家庭教育への関心と参加を推進する。 家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	親と子のふれあい事業						
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和52年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
市民講座事業・図書館事業に掲載							
前年度の課題	公民館事業、図書館事業で実施しているが、親子の絆を深め、健やかな子育てを目指すために事業内容の充実を図るとともに、より多くの親子が参加できる機会の提供が必要である。						
当該年度の目標	家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 親子で自然に親しみ、豊かな心を育てる共同体験機会の充実						
事業の実施状況	<p>市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふらの産野菜でつくる美味しいスイーツ講座 7名</li> <li>・インファントマッサージ教室 9/22～10/6(全3回) 延28名</li> <li>・親子押し花絵教室 1/11・12(各1回) 延15名</li> <li>・親子AED講習 10/13 14名</li> </ul> <p>読み聞かせ(図書館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりおはなし会 43回 延688名</li> <li>・おはなし会 11回 延371名</li> <li>・えいごのおはなし会 10回 延210名</li> </ul> <p>こども図書館まつり 5/8～5/13 延2,875名</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
親と子がふれあう機会を通して絆を確認し、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている							
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	公民館事業、図書館事業で実施しているが、親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容の充実を図るとともに、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。						
	改 善 策						
事業内容の検討を行い、関係する部署や機関・団体などと連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども未来づくり事業（子ども未来づくりフォーラム）						
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに、市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			58	92	94	74	31
前年度の課題	募集に関しては学社融合推進事業として参加者を確保できたが、今後は、参加者の募集方法について、もっと広い地域から参加が得られるような募集のあり方を検討する必要がある。 フォーラムに参加しやすい日程や内容の検討が必要である。						
当該年度の標目	豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場						
事業の実施状況	<p>子ども未来づくりフォーラム 各校で取り組まれている特色ある学習活動を児童生徒が発表する「学習実践発表」、5月に実施した「少年の主張大会」の上位入賞者の主張発表と「まちづくりに対する提言」の三部構成で実施した。</p> <p>11/27開催 発表者小中学生90名、観覧150名          ・「学習実践発表」 5校61名（富小6年生12名、樹海小5・6年生15名、東小4年生17名、東中生徒会7名、西中2・3年生10名）          ・「少年の主張」 少年の主張大会上位入賞者3名による主張発表          ・「未来への提言」 山部5・6年生26名が5グループに分かれてまちづくりへの提言を行った。</p>						
評価	達成度・効果度の検証						
	達成度	B	A	A	A	A	学校における特色ある取組み・学習内容やまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表し、表現する場となっている。子ども達の発想がまちづくりへ具体化しているものもある。
効果度	B	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>事業内容の企画・実施（時間配分）について学校との打合せを充分行う必要がある。          児童・生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表の場面をつくり、より豊かな表現力・コミュニケーション能力向上に結びつける必要がある。          近年「未来への提言」の参加校も固定化されてきており、学習指導要領改訂に伴い、言語力や読解力及び考える力が重視されたことから、次年度に向け構成内容の検討が必要である。</p>						
今後の取り組み	改 善 策						
	<p>学校との連携により、より計画的な事業推進を行うとともに、学習指導要領を遵守した内容の充実を図る。          フォーラムの時間配分について、検討を行う必要がある。          授業時数の確保もあるが、多くの児童・生徒の参加促進を図る。</p>						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども会育成事業						
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和38年	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,033	1,034	1,012	1,022	907
前年度の課題	子どもの減少により、子ども会が未組織の地区もある。団体活動の基礎的知識や技術をもった育成員の養成を図り、子ども会の活性化を図る必要がある。						
当該年度の目標	地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実 豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進 家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の実施状況	<p>富良野市子ども会育成連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数 23団体</li> <li>・会員数 1,045名</li> </ul> <p>子ども会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー研修会(イングリッシュキャンプ)【前期】 8/4~6 46名 山部太陽の里キャンプ場</li> <li>・リーダー研修会(後期) 3/26~28 69名(国立大雪青少年自然の家)</li> <li>・シニアリーダー研修(青少年サークル) 11/23~25 9名 文化会館大会議室</li> <li>・育成員研修会 11/23 23名 文化会館</li> <li>・かるた大会 1/14 6チーム19名 文化会館大会議室</li> <li>・ジュニアスノーフェスティバル(少年団本部と共催) 3/3 18名 空知川河川敷地</li> <li>・遊びの出勤事業 延8回(青少年サークルを単位子ども会・地区子ども会へ派遣)</li> </ul>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 異年齢集団での様々な活動が、社会性を身につかせ子どもの成長に大きく寄与している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	子どもの減少等により子ども会加入が困難な地区もあるが、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 子ども会活動の基礎知識や技術をもった育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 より効果的で多様な事業展開をはかるため、学校教育など関係機関との連携を図る必要がある。						
	改 善 策						
	子ども会加入の働きかけを継続するとともに、未組織地区の子ども達が事業に参加し、異年齢集団での体験など、子ども会活動の良さを体験できる活動内容の充実を図る。 時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。 イングリッシュキャンプ実施に向け、関係機関と協議をする。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23	H24
30	30		36	46	58		
前年度の課題	個人、団体の両面から広く該当者を発掘し推薦してもらう必要がある。						
当該年度の目標	ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成						
事業の実施状況	<p>富良野市青少年表彰式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11/23開催 文化会館大会議室</li> <li>・ 被表彰者 2団体・1個人</li> </ul> <p>表彰基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人 概ね30歳までの青少年で、次に掲げる活動を3年以上実践している者             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 公共の福祉増進のための行為や努力した者</li> <li>イ) 生産性の向上や職場環境の改善などに貢献した者</li> <li>ウ) 地場産業の振興に貢献した者</li> <li>エ) 青少年団体の指導又は育成に貢献した者</li> </ul> </li> <li>・ 団体 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的として概ね30歳までの青少年で構成されている団体で、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動の成果が著しく他の青少年の模範となる者。</li> </ul>						
評価	H20 H21 H22 H23 H24					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	活動の顕著な青少年（個人・団体）を表彰することにより、他の青少年の模範となる。
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	個人、団体の両面から幅広く該当者を発掘し、推薦してもらう必要がある。						
	改 善 策						
青少年表彰制度について、市民に理解してもらう。 各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募る。							



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。  補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体より補導員を推薦願い委嘱する。	事業年度	開始	終了			
			昭和50年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			183	197	173	153	256
前年度の課題	子ども達のたまり場となりやすい市内の「商業施設」等を重点的に月3回程度巡回しているが、施設管理者との情報交換や連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。						
当該年度の目標	家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の実施状況	補導員数 36名委嘱 街頭補導(富良野地区) ・実地回数22回・山部地区1回 延従事者65名(山部地区2名) 補導員会議(兼研修会) 5/24開催 26名出席 文化会館中会議室 広域補導(旭川広域補導連絡協議会) ・合同補導...北海へそ祭り祭典補導(富良野市)7名(協議会より3名) 買物公園街頭補導(旭川市)2回延2名参加 ・列車添乗補導...2回実施(富良野~幾寅間)延従事者6名(協議会より2名)						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証  街頭補導の実施により、非行の未然防止につながっている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	子ども達のたまり場となりやすい市内の「商業施設」等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。						
	改 善 策						
	学校、家庭、関係機関、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成に努める。						



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化、スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。  平成20年度 山部小学校児童対象で開設 平成22年度 樹海小学校児童対象で開設 平成23年度 布礼別小学校児童対象で開設	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			557	2,670	4,161	6,002	6,146
前年度の課題	児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。						
当該年度の目標	地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進						
事業の実施状況	<p>山部地区放課後子ども教室&lt;会場：山部小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登録児童数 70名 (H23年度 64名)</li> <li>開催日数 196日 (H23年度 185日)</li> <li>延 4,785名出席 (H23年度 4,989名)</li> </ul> <p>東山地区放課後子ども教室&lt;会場：樹海小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登録児童数 42名 (H23年度 46名)</li> <li>開催日数 182日 (H23年度 183日)</li> <li>延 5,303名出席 (H23年度 5,976名)</li> </ul> <p>布礼別地区放課後子ども教室&lt;会場：布礼別中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登録児童数 15名 (H23年度 18名)</li> <li>開催日数 40日 (H23年度 40日)</li> <li>延 486名出席 (H23年度 642名)</li> </ul>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証  児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かですこやかに育まれる環境づくりに効果をあげている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	引き続き児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。						
	改 善 策						
	児童館が設置されていない未設置地区での開設について、引き続き検討する。 平成25年度は、布部地区において開設する。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	学社融合推進事業						
事業の目的・概要	学校、家庭、地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開始	終了			
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			461	497	322	441	356
前年度の課題	学校支援地域本部事業の学校支援ボランティア等の地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
当該年度の目標	地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備						
事業の実施状況	<p>富良野市学社融合推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進委員 19名委嘱(教頭会より推薦の幹事2名含む)</li> <li>・研修会の開催 3/18 76名参加 保健センター会議室 「子どもの脳と心の発達と大人の関わり方」 講師 社会福祉法人北海道療育園 医療主幹(小児科医) 楠 祐一 氏</li> <li>・市内小中学校における実践事例179事例(内152事業で学校支援ボランティアの活動)</li> </ul> <p>学校支援ボランティアの登録数 283名(男性86名 女性197名)(H23年度 286名)          家庭科補助10名 体育補助93名 読み聞かせ85名 農園手伝い12名          環境整備22名 自然科学・歴史9名 食育7名 パソコン3名          文学・文化5名 学校行事支援11名 登下校時等の安全指導92名 その他30名          希望分野が複数の登録者あり</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 学校・家庭・地域社会が一体となり、地域の教育活動を推進している。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへのより多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
	改 善 策						
	学校支援ボランティアの登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の向上を目指す。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青年活動活性化事業（青年塾）						
事業の目的・概要	H23年度に実施したアンケート調査結果（20～39歳対象）から 出会い・交流の場 まちの活性化ボランティア活動 休日・余暇活動に関して問題意識があり、同世代の交流を強く求めていることが明らかになった。 青年活動（集団づくり）の活性化を図るとともに、様々な学習の機会を通し、青年集団をリードする人材育成を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成24年度	新規			
		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23	H24
							38
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	青年の出会いと交流の場の創出（青年塾）を行い、自らの課題解決に向けたきっかけづくりを行う。						
事業の実施状況	活動実績（塾生58名 男性36 女性22） ・開講式 5/11 ・塾生交流会 6/16 ・塾生ミニ運動会 6/23 ・フラノビ・アモール運営協力（4回） 7/13～8/10 ・塾生ボウリング大会 7/20 ・北海ヘソ祭り参加 7/28・29 ・ワインぶどうまつり運営協力 9/16 ・クリスマスイヴイヴパーティ開催 12/23 ・成人式運営協力 1/13 ・各種イベント実行委員会等会議出席 ・定例会 月2回（6月以降） 実施したイベントの反省と今後に向けての協議						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証
	達成度					B	
	効果度					B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	更なる塾生間の交流を進めるとともに、他団体の交流や課題解決に向けた学習機会の提供が必要である。 各種イベントやボランティア活動参加への理解を深める必要がある。						
今後の取り組み	改 善 策						
	定例会等を通じた情報共有や親睦を深めるとともに、他青年活動団体等との交流を行う。 各種学習機会の充実を図る。 地域活動への参加及び協力の推進。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する。 中央公民館、山部公民館、東山公民館の3公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設。	事業年度	開始	終了			
			平成16年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,085	572	1,030	896	829
前年度の課題	多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題について引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の目標	現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供						
事業の実施状況	ふらの市民講座(延76回 1,023名参加) 中央公民館 ・子ども対象～ 2講座延13回 延173名 ・成人対象～ 9講座延18回 延231名 ・家庭教育～(親子対象) 4講座延7回 延64名 ・女性対象講座～ 1講座延15回 延175名 ・自主企画講座～ 2講座延12回 延178名 山部公民館・生涯学習センター ・成人対象～ 4講座 延66名 ・家庭教育(親子対象) 2講座 30名 東山公民館 ・成人対象～ 1講座延5回 延106名						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域課題といった、市民の必要課題についての学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
	改 善 策						
市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係機関・団体等との連携により魅力ある講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題							

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに、自らの生活向上に役立てる。 富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,014	1,011	951	808	1,012
前年度の課題	新入生の確保に努めているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。						
当該年度の目標	高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備						
事業の実施状況	講話、クラブ学習、教科学習など年間30日程度の学習を行う 3校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等 在籍者数 本科59名 大学院18名 研究科16名 計93名 ・富良野校～学習日数32日 本科37名 大学院15名 研究科14名 計66名(出席率90%) ・山部校～学習日数32日 本科14名 大学院0名 研究科2名 計16名(出席率86%) ・東山校～学習日数35日 本科8名 大学院3名 研究科0名 計11名(出席率74%)						
評価	H20 H21 H22 H23 H24					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	富良野校・山部校・東山校3校合同学習を行い、学習内容の統一と充実を図っている。教科学習では、専門的な講師陣による充実した学習活動を行っている。また、自主的な学習活動として、学年別研究を行っている。
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	新入生の確保に努めているが入学生が減少傾向にあるので、その原因を分析し引き続き学生の確保に努める必要がある。						
	改 善 策						
学生のニーズを把握するとともに魅力ある学習内容の検討を行い、ことぶき大学の学習状況を広報紙等により情報提供するとともに、引き続き公開学習日を設定し、ことぶき大学への理解を深めてもらう。							

## 平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	富良野芸術文化事業協会事業						
事業の目的・概要	多くの市民に優れた舞台芸術及び芸術作品の鑑賞機会を提供し、地域の文化振興に役立てる。	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			3,150	1,000	900	1,000	1,000
前年度の課題	様々なジャンルの優れた舞台芸術及び芸術作品を提供し、地域に根ざした芸術文化の向上を図る必要がある。						
当該年度の目標	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 文化活動の指導者養成のための研修機会の推進						
事業の実施状況	鑑賞機会の提供 文化会館大ホール ・オリジナルミュージカル「ヘルパーズ」公演 6/13 来場者263名						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 市民の芸術にふれる機会を拡充し、文化意識の向上を図るため、より良い舞台芸術を市民に提供するよう努力している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今後の課題						
	様々なジャンルの優れた芸術文化作品の鑑賞機会を提供し、地域に根ざした芸術文化の振興を図る必要がある。						
	改善策						
	道文化財団や市内の文化団体等との連携や情報交換等を行いながら事業展開を図る。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども芸術鑑賞教室事業						
事業の目的・概要	児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和48年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,099	1,260	1,052	910	1,050
前年度の課題	鑑賞教室終了後の児童生徒のアンケート調査と学校の希望により演目を決定している。今後は地元演劇グループ(富良野GROUP)のロングラン公演の鑑賞機会を検討する必要がある。						
当該年度の目標	児童・生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を設け、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。						
事業の実施状況	舞台芸術鑑賞(小・中学生) ・ミュージカル「オズの魔法使い」 8/29・30開催 来場者延 1,745名(児童、生徒、教員、父母)文化会館大ホール 公演団体 榊劇団ポプラ						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 優れた芸術にふれる機会を児童生徒に提供し、豊かな感性を育み、芸術文化の意識高揚に向け、学校と連携を図りながら事業を実施している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	鑑賞教室終了後に児童生徒に対するアンケート調査と学校の希望をとりまとめて演目の決定をしているが、今後は地元演劇グループ(富良野GROUP)による演目の鑑賞機会を引き続き検討する必要がある。						
	改 善 策						
今後の取り組み	演目について、地元演劇グループによる公演も含めた協議を学校側と行い、鑑賞機会の充実を図る。						



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	市民総合文化祭事業						
事業の目的・概要	郷土芸術文化の成果を広く市民に発表する場を提供するとともに、一人一文化を奨励し文化意識の高揚に努め、文化団体の交流並びに文化の振興を図る。 富良野会場、布部会場、麓郷会場、山部会場、東山会場の5会場で開催	事業年度	開始	終了			
			昭和41年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			476	471	472	462	465
前年度の課題	山部菊花展への出品者が減少している。 若い世代の参加を促す必要がある。 文化団体会員の後継者育成が必要である。						
当該年度の目標	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進						
事業の実施状況	第47回市民総合文化祭 ・富良野会場 11/3～4 延来場者2,509名 文化会館 作品展示 1,108点 芸能発表430名 ・布部会場 10/29 延来場者80名 布部会館 作品展示 150点 芸能発表50名 ・麓郷会場 11/3 延来場者80名 麓郷小学校 作品展示160点 ・山部会場 11/2～4 延来場者1,417名 生涯学習センター・山部福祉センター 作品展示 1,163点 芸能発表71名 ・東山会場 11/2～3 延来場者550名 東山公民館 作品展示 498点 芸能発表110名						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 市民の芸術文化の発表の場を市民に提供し、文化団体の交流や文化振興を図るため、5会場それぞれ地域性を生かした文化祭を行っており、地域文化の振興につながっている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	菊花展への出品者を増やす必要がある。 若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
	改 善 策						
	菊づくり講習会を開催し、菊愛好者の増加を図る。 若い世代の市民が芸術文化に親しむ機会を拡充する。 生涯学習の成果を発表する場であり、地域の芸術文化に親しむ機会であることを広く市民に理解していただき、芸能発表・作品展示とともに多くの方が参加されるよう努め、文化団体活動への理解を深める機会とする。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの演劇祭事業						
事業の目的・概要	開庁100年を機に、次代に受け継ぐ事業として、過去から未来を学ぶ『演劇』を継続して実施している。 「演劇のまち富良野」をめざし、市民、小中学生による演劇の発表の場として開催する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,000	1,000	2,000	1,400	1,900
前年度の課題	参加する学校数が限られており、多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難。						
当該年度の目標	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供						
事業の実施状況	<p>第10回ふらの演劇祭</p> <p>10/6 来場者 252名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布部小学校「オニオンたろう」 出演11名</li> <li>・中富良野中学校3年生「Sing for tomorrow!」 出演64名</li> <li>・麓郷中学校「忘遠郷～忘れてしまった遠故郷」 出演10名</li> </ul> <p>10/7 来場者 182名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・扇山小学校4年生「貧乏神物語」 出演44名</li> <li>・東小学校4年生「夏休み」 出演40名</li> <li>・布礼別中学校「un deux trois」 出演3名</li> </ul> <p>10/8 来場者292名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民劇「みずのかげら」</li> </ul>						
評価	達成度・効果度の検証					市民に演劇祭が広く認知されてきており、毎年参加する学校は演劇力の向上はもとよりコミュニケーション能力の向上が見られ、その演技が観客の感動を呼んでいる。また、全国学力学習状況調査結果から、参加している学校では国語力が向上している。	
	達成度	B	B	B	B		B
評価	効果度	B	B	B	A	A	
	今 後 の 課 題						
今後の取り組み	希望する学校が参加しているが、数多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。						
	改 善 策						
今後の取り組み	今後も継続して「演劇のまちふらの」をめざし、継続して事業推進を図る。 演劇指導を行っているふらの塾OBと小中学校教諭との連携を図りながら事業推進を図る。 演劇指導に係る事業時間の確保について、学校側で検討してもらう。 事業内容のPRを行う。						

## 平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育				
事務事業名	舞台塾ふらの事業						
事業の目的・概要	舞台芸術の視野の拡大や人材の育成、幅広いネットワークの形成を促進するため、近隣市町村の関係団体と連携し、「舞台塾ふらの事業」を開催する。	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
前年度の課題	北海道の負担金が予算の半額近くを占めており、道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。						
当該年度の目標	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進 文化活動の指導者養成のための研修機会の推進						
事業の実施状況	<p>演劇創造活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富良野塾OB舞台創作事業 9/12~11/1 参加者数延185名 富良野演劇工場</li> </ul> <p>演劇に親しむ機会づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富良野塾OB巡回公演「箱の中身」 10/28~11/7 来場者数延930名 上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村</li> </ul> <p>次代を担う人づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジャグナルJrコンサートとワークショップ 8/9 中富良野町児童館 78名(小学生~) ジパングIの子ども達を招聘し、伝統音楽・ダンスの披露をしてもらい、異国の伝統文化に直接触れる機会を設けた。また、うちわづくりを子ども達同士で行った。</li> <li>演劇リハビリテーション 11/29 寿光園 58名(幼稚園児)</li> <li>演劇ワークショップ 3/16~17日 富良野演劇工場 延23名参加</li> </ul>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 舞台芸術への理解を深める機会となっており、近隣市町村の舞台芸術に対する底辺を広げている 実行委員会構成市町村(北海道、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村)からも事業実施の期待度は大きい。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	北海道の負担金が予算の半額をH22年度迄占めていたが、年々負担金額削減傾向にある。道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。						
	改 善 策						
	各種補助金の活用や事業内容の検討を行うとともに、自主財源(チケット収入)の確保を図る。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課			
事務事業名	スポーツ環境の整備					
事業の目的・概要	いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる環境の整備を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			継続			
	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
		5,153	6,544	5,612	4,882	4,104
前年度の課題	市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。					
当該年度の目標	四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供 さまざまな媒体を活用した効果的なスポーツ情報の提供					
事業の実施状況	水泳記録会開催等委託 12月16日開催 会場「ふらっと」 81名参加(女子48・男子33) 【園児7・小学生63・中学生3・一般8】 学校施設開放事業 市内小中学校13校開放(富良野東中学校は屋体改築工事のため4月のみ開放) 開放日 延1,434日、利用者数 延23,808名、利用団体数 38団体 NPO法人ふらの体育協会補助 ふらの体育協会が主催するスポーツ活動等の支援(体育協会自主事業) 少年野球国際交流事業 海外の少年野球チームと野球を通じた国際交流を図るとともに、野球技術の向上を図る。 (8月8日～12日実施、台湾新北市立新泰國中棒球隊、地元中学生4チーム 合計143名参加)					
評価		H20	H21	H22	H23	H24
	達成度	B	B	B	B	B
	効果度	B	B	B	B	B
	達成度・効果度の検証 計画通り実践が進んでおり、NPO法人ふらの体育協会のスポーツ推進活動は、広く市民に浸透しつつあり、今後益々主体的な活動が期待されている。 学校屋内運動場の整備が進み、充実した学校施設開放が推進されている。					
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。 引き続き、学校屋内運動場を整備し、学校施設開放事業の推進を図る。					
	改 善 策					
	生涯スポーツの振興をNPO法人ふらの体育協会と連携強化し、いつでも、どこでも、だれでもが活動できる体制を図る。 小中高校生のスポーツ活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けたスポーツ環境整備を図る。					

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	人材及び団体育成						
事業の目的・概要	各スポーツ団体・サークルの活性化を図るため、指導者等の人材育成と各団体の育成を図る。	事業年度	開始		終了		
			継続				
事業の目的・概要	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24	
		2,368	2,578	828	828	826	
前年度の課題	富良野市体育指導委員(平成24年度から富良野市スポーツ推進委員)とNPO法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。						
当該年度の目標	生涯スポーツ振興のためのスポーツ指導者及び団体の育成 地域づくりを目的とした総合型地域スポーツクラブの育成支援						
事業の実施状況	スポーツ推進委員活動事業費 市民の健康体力づくりを目的にスポーツ推進委員を各地区に配置し、生涯スポーツの推進を図る。 各種競技会協力活動(へそマラソン・障がい者スポーツ大会・全国高校選抜スキー大会・小学生スパードッジボール大会等) 各種軽スポーツ指導普及活動(フロアーカーリング・キンボール) 山部体育振興会補助 各種スポーツ大会の実施・やまべゆきんこ祭り協力等 東山体育振興会補助 各種スポーツ大会の実施・樹海駅伝大会実施等 麓郷スポーツクラブ補助 各種スポーツ大会の実施・クロスカントリースキー講習会等の実施 総合型地域スポーツクラブ活動支援 麓郷スポーツクラブ(H21年度設立)、北の峰スポーツクラブ「ふらぼ」(H22年度設立)						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
達成度・効果度の検証							
地域スポーツ振興の促進を目的にスポーツ推進委員を配置し、軽スポーツの指導普及活動を推進している。また、山部、東山、麓郷地区毎で実施されている各種スポーツ大会が活発に開催されており、市民の体力増進が図られている。							
今後取り組み	今後の課題						
	富良野市スポーツ推進委員とNPO法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。						
今後取り組み	改善策						
	各種団体や各地域の主體的なスポーツ活動を活性化するため、NPO法人ふらの体育協会と富良野市スポーツ推進委員と連携をとりつつ、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる体制づくりを推進する。 総合型地域スポーツクラブ及び地域体育振興会等の育成充実を図るとともに、リーダー及び指導者の育成を図る。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課					
事務事業名	スポーツ施設の整備及び管理運営							
事業の目的・概要	指定管理者等との連携によるスポーツ施設管理運営を推進する。	事業年度	開 始		終 了			
			継続					
	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24		
51,009		59,479	71,953	68,394	65,238			
前年度の課題	適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市とNPO法人ふらの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。							
当該年度の目標	市民ニーズに対応するための民間活力の活用と各種団体との連携による事業の展開							
事業の実施状況	<p>体育施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富良野市スポーツ施設指定管理(NPO法人ふらの体育協会)</li> <li>屋外水泳プール管理(山部・東山)</li> <li>クロスカントリーコース整備(富良野スキー連盟)</li> <li>屋外スポーツ施設管理用機械整備(乗用草刈機等)</li> </ul> <p>体育施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民野球場スコアボード改修工事、陸上競技場メインスタンド塗装修繕</li> <li>市営テニスコート照明、電撃殺虫器修繕、</li> <li>スポーツセンターアリーナ内壁塗装工事</li> </ul> <p>有料パークゴルフ場運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金満緑地公園パークゴルフ場指定管理(大北土建工業(株))</li> <li>山部自然公園太陽の里パークゴルフ場指定管理(山部商業協同組合)</li> <li>東山パークゴルフ場指定管理(公益社団法人富良野市シルバー人材センター)</li> </ul>							
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B		各施設の指定管理者により、施設利用に伴う安全性や施設運営の推進、更に施設利用者、市民サービスの向上が図られている。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市とNPO法人ふらの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。 青少年のスポーツ活動は年々盛んになり、全道・全国大会へと出場しているが、屋外河川スポーツ施設(ラグビー場、サッカー場等)の利用頻度から施設整備の充実を図る必要がある。							
	改 善 策							
体育施設の計画的な施設整備を図るため、NPO法人ふらの体育協会や各施設の指定管理者と連携を図り推進する。 第5次富良野市総合計画におけるスポーツ施設整備事業の推進を図る。								



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	競技スポーツの育成						
事業の目的・概要	幼児から高齢者まで自ら楽しむ『実践スポーツ』、見て楽しむ『応援するスポーツ』、ボランティアで楽しむ『協力するスポーツ』を实践し、それぞれのライフステージにおいて競技スポーツの育成振興を図る。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
前年度の課題	競技大会公認施設の維持管理を推進する。 ボランティアスタッフの養成確保を推進する。 長期的な選手育成体制づくりと指導者の養成を推進する。	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			8,417	10,851	8,800	6,000	5,624
当該年度の目標	四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供						
事業の実施状況	継続 道知事・上川教育局長・市長杯第41回麓郷クロスカントリー大会補助 平成25年2月10日(日) 麓郷クロスカントリーコース 参加者166名 継続 セルジュラング杯小学生ジャイアントスラローム競技大会補助 平成25年2月23日(土) 富良野スキー場北の峰ゾーン 参加者57名 継続 第14回富良野市長杯スーパージャイアントスラローム大会補助 平成25年3月13日(水)～14日(木) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者151名 継続 ジュニアスノーフェスティバル補助 平成25年3月3日(日) 空知川河川運動広場 参加者18名 継続 第25回全国高等学校選抜スキー大会(アルペン種目) 平成25年3月14日(木)～17日(日) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者延714名 新規 全日本バレーボール小学生大会北海道大会補助 平成24年6月23～24日(土～日) 富良野スポーツセンター 男女32チーム参加 新規 国体バレーボール競技北海道ブロック予選会補助 平成24年7月8日(日) 富良野スポーツセンター 男子5チーム参加 新規 東日本軟式野球北海道大会補助 平成24年9月14～17日(金～月) 富良野市民球場・若葉球場 男女28チーム参加						
評価			H20	H21	H22	H23	H24
	達成度	A	A	A	A	A	A
			H20	H21	H22	H23	H24
効果度	A	A	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
富良野市の地域特性を活かした大会の開催と誘致により継続的な大会開催を実施しており、地域活性化も図られている。特に全国高等学校選抜スキー大会開催は、富良野市開催9回目であり、「スキーのまちふらの」を実現している。							
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	競技大会公認施設の継続公認並びに維持管理の推進。 競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの育成確保の推進。 各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進。						
	改 善 策						
各種公認競技大会開催に伴う公認競技場の公認継続。 各種競技会開催に伴い、NPO法人ふらの体育協会の体制強化。(加盟競技団体の協力)							



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	アスリート育成派遣事業						
事業の目的・概要	子ども達のスポーツ活動が盛んとなるに従い、全道、全国、世界（国際）大会へ出場する機会が増え、市民に夢と感動を与えるとともに本市の大きな財産となっている。このため、将来のアスリートを育成するために大会派遣費の一部を補助する。	事業年度	開始	終了			
			平成23年度	継続			
		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23	H24
						3,628	2,199
前年度の課題	小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的とした、アスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。						
当該年度の目標	全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し、派遣費の一部を補助し、将来のアスリートを育成する。						
事業の実施状況	<p>全道大会 3大会                      北海道卓球選手権大会 ジュニアオリンピック陸上競技大会北海道選手選考会                      道新杯北海道中学選抜卓球大会(団体戦)兼全国中学選抜予選会</p> <p>全国大会 13大会                      全国高等学校少林寺拳法大会 全国中学生少林寺拳法大会                      全日本少年少女空手道選手権大会 少林寺拳法全国大会                      全国高等学校少林寺拳法選抜大会 サトリアップ全国小学生カヌー選手権大会                      JOCジュニアオリンピック全日本中学生選抜スキー大会（ノルディック種目）                      FISファーストカップ ジャパンシリーズ 2013                      JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアスキー選手権（ノルディック種目）                      全日本スキー選手権大会（クロスカンントリー競技）                      全日本スキー選手権大会（アルペン技術系）                      JOCジュニアオリンピック全日本ジュニアスキー選手権大会アルペン競技                      全国小学生バトミントン選手権大会</p> <p>世界（国際）大会 3大会                      チルドレンウィスラーカップ                      FIS CHILDREN 22nd Ingemartrofen2012(インゲマル トロフィー-2012)                      第1回u-15「KENKO」アジア・オセアニア軟式野球国際選手権大会</p> <p>選手強化事業 1事業                      アルペンチルドレン合宿（全日本）</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証
	達成度				A	A	
	効果度				A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的とした、アスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。						
	改善策						
	小中高校生のスポーツ競技活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けた競技スポーツの環境整備を図る。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課、学校教育課				
事務事業名	子どもスキー技術向上支援事業						
事業の目的・概要	冬期間における小中学生の体力向上及びスキー技術向上のため、富良野スキー場リフト搭乗無料券を配付するとともに、小中学校のスキー授業にインストラクターを派遣し、スキー技術の向上を支援する。	事業年度	開始	終了			
			平成23年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
						14,732	7,304
前年度の課題	スキー授業インストラクター派遣において、インストラクター単独による指導希望もあり今後、指導体制、指導方法等について検討する必要がある。 全国体力運動能力調査結果から「長座体前屈」がやや劣っており、スキー授業等を通じて柔軟性を高め、基礎体力をつける必要がある。						
当該年度の目標	冬期間の小中学生の体力向上、スキー技術の向上を図る。						
事業の実施状況	<p>富良野スキー場リフト搭乗無料券配付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配付～中学生 688名(対象者706名、配付率97.4%)</li> <li>H24年度より小学生のリフト無料化に伴い、中学生に対し富良野スキー場リフト搭乗無料券を配布する。</li> </ul> <p>スキー授業インストラクター派遣(小中学校延81回派遣)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富良野小14回、扇山小11回、東小11回、鳥沼小2回、布部小中3回、山部小3回</li> <li>樹海小2回、麓郷小3回、山部中4回、麓郷中2回、布礼別小中3回</li> <li>西中10回、東中11回、樹海中2回、</li> <li>派遣インストラクター人数～延177名</li> </ul>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証
	達成度				A	A	
	効果度				A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	スキー授業インストラクター派遣において、インストラクター単独による指導希望もあり今後、指導体制、指導方法等について検討する必要がある。 全国体力運動能力調査結果から「長座体前屈」がやや劣っており、スキー授業等を通じて柔軟性を高め、基礎体力をつける必要がある。						
	改 善 策						
	スキー授業インストラクター派遣におけるインストラクター単独による指導について学校及び関係者と協議する。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	市内外の文化財、史跡、博物館の見学など文化財保護のための啓蒙・普及活動を推進する。 郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和43年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			993	814	995	918	3,429
前年度の課題	歴史的建造物第一次調査でリストアップした建物の中から、100件程度を抽出し、写真撮影、図面作製、聞き取り調査などの詳細調査を実施し、基礎的な記録保存に努めなければならない。						
当該年度の目標	文化財保護のための啓蒙、普及活動の推進 民俗芸能、文化財保護団体の育成、指導者の養成、後継者の確保 民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用						
事業の実施状況	博物館・史蹟見学会の開催（道立近代美術館「大原美術館展」、三笠市博物館） 埋蔵文化財保護のための事前調査および分布調査 市指定文化財の保護 「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」「北海道大学第八農場富良野成壘記念碑」「北海道大学第八農場山部成壘記念碑」 富良野獅子舞保存会、富良野弥栄太鼓保存会、山部獅子舞保存会への補助 富良野蒸気機関車保存会への交付金 郷土芸能伝習館の円滑、効果的な管理運営 富良野市歴史的建造物調査事業の実施（調査対象物件209件をリストアップ、第二次調査の実施～聞き取り・写真撮影・台帳整理、見学研修会の開催） コミュニティ助成事業による山部獅子舞保存会の備品の更新（250万円）						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 郷土の歴史・文化の理解、文化財保護思想の普及啓蒙に成果をあげている。 民俗芸能の伝承に一定の効果をあげている。 歴史的建造物として詳細調査を実施した市内に遺された築50年以上の建造物をリストアップ。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	歴史的建造物第一次調査でリストアップした建物の中から90件程度を抽出し、写真撮影、図面作製、聞き取り調査などの詳細調査を実施し、基礎的な記録保存に努めなければならない。						
	改 善 策						
	平成25年度において、上記調査をもとに2か年にわたり実施した歴史的建造物の詳細調査を継続し、その成果を報告書として刊行するとともに、郷土の歴史・産業・文化を知る基礎資料として活用する。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	博物館活動（教育・普及）を推進する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和43年度		継続		
		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23	H24
		1,304	1,142	1,168	1,220	1,191	
前年度の課題	市民生活・地域課題に関連したテーマや、市民の学習ニーズに応じた博物館活動を積極的に展開する必要がある。 美術アート系の講座は児童・生徒の参加が多く好評であり、その学習機会と内容の充実が求められる。						
当該年度の目標	博物館活動（教育・普及）の推進 専門的な知識を有する人材の確保と養成						
事業の実施状況	講演会の開催（歴史講演会「樺太アイヌと民族学者ピウスツキ」） 特別展・企画展等の開催（写真展「北海道・人とかかわる自然の姿」、道北地区博物館等連絡協議会移動展「国境の島・樺太展」、富良野アートギャラリー収蔵作品展「花との時間」「動物世界」） ワークショップの開催（「アートを楽しもう！」4回、「ナキウサギの絵本朗読会」） 小中高等学校の総合的な学習、社会、理科、生活科の指導・支援（山部小、鳥沼小、樹海小、富良野西中、東京都立農芸高校） 博物館資料貸出しキット「みゅーじあむ・ぼっくす」の活用および資料貸出し（布部小、団体1件、会社1件） 『ふらの博物誌』の日刊富良野紙上への連載（富良野市郷土研究会との共催）						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
	達成度・効果度の検証 郷土愛、郷土意識の高揚に成果をあげている。 郷土の自然、歴史、文化に対する理解を深めることに有効である。 美術に親しむ機会の提供により、美術をより身近なものとして楽しむことに効果をあげている。						
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	市民生活・地域課題に関連したテーマや、市民の学習ニーズに応じた博物館活動を積極的に展開する必要がある。 美術アート系の講座は児童・生徒の参加が多く好評であり、その学習機会と内容の充実が求められる。						
	改 善 策						
	講座、講演会については、時代のニーズ、市民ニーズに応じた事業展開を図る。 特別展、企画展は、市民や団体参加型の企画を推進する。 美術アート系講座は、絵画の基礎技術の習得にとどまらず、様々な画材を用いたり、モチーフやテーマにも工夫をこらす。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	自然や環境への理解を深める取り組みを推進する。 自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和51年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
			博物館活動推進事業に包含				
前年度の課題	絶滅危惧種のヒメギフチョウなどの希少種の保護活動や在来種を害する特定外来種のオオハンゴンソウの除去活動などを通して、学校・地域で地域の自然や環境に理解を深める必要がある。						
当該年度の目標	自然とふれあう体験学習・環境学習の推進 専門的な知識を有する人材の確保と養成						
事業の実施状況	自然観察会の開催(「富良野の自然に親しむ集い」5回:花とバードウォッチング、初夏の花と昆虫、ヘイケボタル観察会、流星群観望会、紅葉の森と雪虫) 自然講演会の開催(「失われゆく地域固有の自然～ザリガニとイワナを例に」,「虫の目魚の目から見た富良野の自然」) ふらの森の教室の開設(展示、自然観察ガイド、木工クラフト) 遊々の森「太陽の里・ふれあいの森」自然観察路の活用と整備(上川南部森林管理署との協定) 小中学校等の環境教育への指導・協力(鳥沼小6回、山部小7回、樹海小4回) 自然環境保全活動(「オオハンゴンソウ抜き取り作戦in鳥沼」,「山川草木を育てる集い植樹祭」,「アキグミ観察会」) 調査プログラムの実施(「鳥沼・生き物調査隊」3回,「エゾナキウサギ生息分布調査」3回,「ホタルの里づくり・ヘイケボタル生息調査」太陽の里)						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 郷土の身近な自然や森林の中で自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に大いに寄与している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 準絶滅危惧種(2012環境省)のヒメギフチョウなどの希少種の保護活動や、在来種を害する特定外来種のオオハンゴンソウの除去活動などとおして、学校や地域において、地域の自然や環境に理解を深める必要がある。						
	改 善 策						
	稀少な湿性林と多種多様な生き物が生息する鳥沼公園で、市民とともに生物分布調査を継続的に実施して人材育成に努めるとともに、標本作成と調査記録の保存を行い、データの集積を図る。また、調査結果をガイドブック改訂に反映する。 開拓以前の自然が残る鳥沼公園の自然環境を保全するために、団体・ボランティアの協力により、オオハンゴンソウの防除活動を実施する。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供</p> <p>【概要】                  図書館の運営                  開館日・時間 火～金：10時～18時                  土・日：9時～17時</p> <p>利用者団体等への施設貸出                  図書館利用促進のためのイベント主催                  インターネット端末の設置（2台）                  図書館情報の提供</p>	事業年度	開始	終了			
		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23	H24
		-	20,421	21,634	22,630	20,896	
前年度の課題	図書館利用サークル、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展させる必要がある。 社会の情報化に対応する情報発信機能の充実が必要 施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 図書館情報システム機能の旧式化及び信頼性低下						
当該年度の目標	図書館利用サークル間の交流の場作り 図書館情報システム更新 インターネット端末の更新（2台） 施設の適切な維持管理による快適な環境づくり						
事業の実施状況	図書館の運営 開館日数：281日 利用状況 多目的ホール及びサークル室：274回延べ3,403名 展示ホール：10回104日2,197名 図書館まつり 期間：10月11～27日 来場者数：9,600名 図書館利用団体会議 2回 図書館情報システム更新 インターネット端末更新						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 図書館利用登録者は年々増加し、生涯学習の場として市民参加・ボランティアとの協働による施設の有効活用が進み、来館者も毎年11万人を超えている。図書館情報システム及びインターネット利用端末の更新を行い、利用者の利便性が増した。
	達成度	-	A	A	A	A	
	効果度	-	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	図書館利用サークル、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 情報化社会に対応する情報発信機能の充実 施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 ICT技術の活用による図書館情報提供の充実						
今後の取り組み	改 善 策						
	図書館利用サークル及び読書推進ボランティアの活動状況について、地域住民への情報提供を行う。 図書館ボランティア制度の充実を図る。 計画的な施設修繕及び利用目的に適合した改修による快適な環境整備を行う。 図書館情報システムの機能を利用した、新サービスの提供。						



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供</p> <p>【概要】 社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 視聴覚ライブラリー資料の収集 (富良野地区視聴覚教育協議会)</p>	事業年度	開始		終了		
			昭和47年度		継続		
事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24		
	-	6,113	6,300	6,035	6,582		
前年度の課題	<p>新鮮で適切な資料構成を維持する必要がある。 沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化をする必要がある。 利用者ニーズに適合した収集内容の再整理が必要である。 視聴覚資料全般に関する検討をする必要がある。</p>						
当該年度の目標	社会情勢や地域住民のニーズに適合した図書資料の整備						
事業の実施状況	<p>購入書籍：一般書2,263冊、児童書935冊、雑誌827冊、新聞9紙 利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 視聴覚教材購入 = DVDソフト61本</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	H20	H21	H22	H23	H24	<p>社会情勢・利用者ニーズをはあくし、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 沿線市町村で視聴覚資料の利用が伸び悩んでいる。</p>
	効果度	-	B	A	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>新鮮で適切な資料構成の維持 沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 視聴覚資料全般に関する検討</p>						
	改 善 策						
<p>利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 富良野地区視聴覚教育協議会を富良野地区広域教育圏振興協議会に整理統合し、図書館連携専門部会において、事業の見直しを図る。</p>							



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供</p> <p>【概要】 図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出</p>	事業年度	開始		終了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
-	-		-	-	-		
前年度の課題	社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供が課題である。						
当該年度の目標	読書活動の推進						
事業の実施状況	<p>インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供</p> <p>リクエスト数：2,921冊</p> <p>相互貸借：他図書館からの借受709冊 他図書館への貸出257冊</p> <p>録音図書：30本購入（所蔵数345本）</p> <p>大活字本40冊購入（所蔵数603冊）</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
市民一人当たりの貸出冊数は、6.26冊と高い水準にあり、利用登録者数も13,457人と増加している。							
今後の取り組み	今後の課題						
	社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
	改善策						
インターネットや専門誌など、様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。							



平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	安全安心な学校給食の提供						
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図るとともに、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を促進し、食中毒の発生や異物混入の防止を図り、安全で安心な学校給食の提供に努めるとともに、給食の安定した供給を図る。	事業年度	開始	終了			
			継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
				253,840	252,829	250,611	241,157
前年度の課題	今後とも継続し、計画的な設備、機器の更新が必要である。(継続)						
当該年度の目標	安全・安心な学校給食の推進 安定した給食の供給						
事業の実施状況	<p>小学校17校、中学校10校に年間195食を基準として米飯週3回、パン・麺週1回の給食を提供</p> <p>「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食の運営 学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(10回開催) 学校試食会での保護者アンケートの実施 調理員の衛生管理研修会の実施(学期毎3回、沿線との合同研修会1回、講師:富良野保健所) HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表 施設設備及び調理機器等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドケトル攪拌装置改修 1台 730,800円</li> <li>・廃水処理施設 調整タンクスラリポンプ取替 504,000円</li> <li>・ " 脱水機オーバーホール 462,000円</li> <li>・給食配送用コンテナ更新 2台 900,900円</li> <li>・下処理室 給水・給湯配管修理 929,250円</li> <li>・食缶(18ℓ 3缶、16ℓ 2缶、12ℓ 2缶、10ℓ 2缶)更新 409,500円</li> <li>・スチームコンベクションオープン修理 270,816円</li> </ul>						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 厨房調理機器、給食供給用備品の更新及び施設改修等を行うことにより、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られる。
	達成度		B	B	B	B	
	効果度		A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	施設は建設から15年目を迎え、各所に経年劣化が見られることから、今後とも大型機械及び厨房調理機器、施設改修等の計画的な設備、機器の更新が必要である。(継続)						
	改善策						
	設備、機器の計画的な更新により、安定した給食の供給を図る。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施						
事業の目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開始	終了			
			平成16年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24
前年度の課題	地場産野菜の収穫時期に合わせ9月末か10月上旬に実施を予定したが、27校の学校行事や秋の研修会等があり、実施日の確保が難しい。 ふるさと給食では、この期間の米飯は中富良野産の2種類(ほしのゆめ・ななつぼし)の使用が可能であったが、JA統合等により困難となったため、独自の開拓が必要と思われる。						
当該年度の目標	食の大切さや感謝する心を育む食育の推進 地産地消の推進						
事業の実施状況	10月9日～12日実施(4日) 沿線企業、農園等の協力により地元食材を確保 学校農園野菜の活用 「給食だより」による地産地消の啓発 ふるさと給食特別号発行 終了後アンケートの実施						
評価		H20	H21	H22	H23	H24	達成度・効果度の検証 「ふるさと給食」は、毎年児童生徒の期待も大きく残食も少ないなど「食育推進」「地産地消」に有効である。
	達成度		A	A	A	A	
	効果度		A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	地場産野菜の収穫時期に合わせ10月上旬の実施予定だが、時期的に学校行事等も多く、実施日の確保が難しい。						
	改 善 策						
	3市町村の農政課と連携し、協力いただける農家の情報を収集し、魅力ある「ふるさと給食」の実施を図りたい。						

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	食に関する指導の推進					
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じ豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導（配置校・未配置校）	事業年度	開始	終了		
			継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の課題	給食センター栄養士と学校栄養教諭の二つの役割は、業務が過重負担になっている。配置校では、全教室への食育指導を目標に指導を行ってきたが、未配置校での食の指導はなかなか進まない。 食育は、食べ残しゼロ運動も含めて長期にわたる指導が必要であり、養護教諭等との連携を図りながら、今後も継続して指導を推進することが必要。					
当該年度の目標	食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 「食べ残しゼロ運動」の推進					
事業の実施状況	食の指導 ・栄養教諭配置校 富良野小学校 ~ 全学年全教室で食育授業を実施 富良野西中学校 ~ 家庭科の時間を中心に全学年指導 ・未配置校 25校の内7校に指導 （扇山小、東小、麓郷小、布部小、布礼別小、布礼別中、占冠中央小） 社会見学における食の指導（鳥沼小） 年間指導計画作成及び給食だより発行 年間指導計画に基づく給食指導ポイント作成 献立委員会等との連携による献立の見直し実施 保護者向けの食の講話実施（布礼別小）					
評価		H20	H21	H22	H23	H24
	達成度		B	B	B	B
	効果度		B	A	A	A
	達成度・効果度の検証					
	献立委員会での意見を反映し、野菜を多く取り入れた献立を実施した。 学校向けに作成した給食指導ポイントの活用により各学校での食の指導の推進につながった。					
今後の取り組み	今後の課題					
	給食センター栄養士と学校栄養教諭の二つの役割は、業務が過重負担になっている。配置校は全教室での食育指導を目標に行ってきたが、未配置校への食の指導はなかなか進められず、指導体制の強化が必要。 食育は、食べ残しゼロ運動も含めて長期にわたる指導が必要であり、養護教諭等との連携を図りながら、今後も継続して指導を推進することが必要。					
	改善策					
	道教委に、栄養教諭の増員配置を引き続き要請していく。 養護教諭等との連携を強化し、食に関する指導の推進を図っていく。 栄養教諭未配置校の食に関する指導は、学校からの指導依頼には随時対応していく。					

平成24年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																							
事務事業名	学校給食費の徴収																									
事業の目的・概要	給食費の徴収については、国が「児童手当」から天引きできる仕組みを講じたことから、その活用を図りながら給食費滞納の未然防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開 始		終 了																					
					継続																					
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	H24																			
前年度の課題	給食費の収納率は、ここ数年99.7%～99.8%と高い水準となっている。未納となる世帯への回収について引き続き学校とも連携を図り進める必要がある。																									
当該年度の目標	給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮																									
事業の実施状況	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>未収入額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年度給食費</td> <td>153,122,540</td> <td>152,513,517</td> <td>609,023</td> <td>99.6</td> </tr> <tr> <td>過年度給食費</td> <td>246,320</td> <td>149,137</td> <td>97,183</td> <td>60.55</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>153,368,860</td> <td>152,662,654</td> <td>706,206</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						区 分	調定額	収入済額	未収入額	収納率	24年度給食費	153,122,540	152,513,517	609,023	99.6	過年度給食費	246,320	149,137	97,183	60.55	合 計	153,368,860	152,662,654	706,206	
	区 分	調定額	収入済額	未収入額	収納率																					
24年度給食費	153,122,540	152,513,517	609,023	99.6																						
過年度給食費	246,320	149,137	97,183	60.55																						
合 計	153,368,860	152,662,654	706,206																							
「児童手当」からの天引き申出額 1件 40,000円																										
評価	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>						H20	H21	H22	H23	H24	達成度				A	A	効果度				A	A	<b>達成度・効果度の検証</b> 学校と連携を図ることにより、高い徴収率を維持できた。また、滞納分については、電話、文書での督促に加え、夜間に滞納家庭を訪問し、場合によっては分割納付を認めるなど徴収に努めた。		
		H20	H21	H22	H23	H24																				
	達成度				A	A																				
効果度				A	A																					
<b>今 後 の 課 題</b>																										
給食費の収納率は、ここ数年99%を超える高い水準を維持している。未納となる世帯への回収については、引き続き学校と連携を図り、児童手当からの天引き徴収等滞納の未然防止に努める必要がある。																										
今後の取り組み	<b>改 善 策</b>																									
	学校と連携を取り、早めに家庭状況を把握しながら、「児童手当」からの天引き徴収に理解を求め、滞納の未然防止に努める。																									



## 平成 24 年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめ、委員の意見に対し改善策を示した方が良いと思われる項目に対しては、教育委員会の改善方を記載する。

なお、自己評価値は、評価基準を「4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観	点	自己評価【平均】 ( )は前年度
---	---	---------------------

評価領域：組織運営等の状況 <項目：学校の組織運営の状況>		
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3 . 8 (3.6)
評価委員 の意見	職員会議は、学校運営で極めて重要な機関で、事前準備が大切である。職員間の共通理解を得る努力が認められる。 概ね良好と考える。引き続き改善への取り組みを期待する。 各校ごとに意思統一されている。 事前準備等が十分なされ、有効に機能している。	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3 . 7 (3.6)
評価委員 の意見	概ね適切に行われていると思われる。 今後も適切な運用に努めてください。 適切に管理されているが、教職員の声も聴いてみたかった。 【改善方策：次年度からの学校訪問の際には、教職員との意見交換も実施する方向で検討する】 事例研修を通じて注意喚起に努めることは大切と思われる。	

評価領域：組織運営等の状況 <項目：学校と設置者の連携の状況>		
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	3 . 8 (3.6)
評価委員 の意見	教育理念が徹底しており、各学校で市教育方針を踏まえ特徴のある学校運営に努力している。 目標設定をより具体的な教育活動につなげていくことで、意識化される効果が出ていると考える。 市教委と各校でしっかりと合意形成され、それをもとに運営されている。 Z E R O運動の推進で大きな成果が得られることを期待している。	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	3 . 8 (3.6)
評価委員 の意見	各学校では危機管理マニュアルを作成し、安全対策に工夫が見られる。 情報共有のネットワークの構築は進みましたが、継続的な連携に努めていく必要がある。	

	<p>適切に情報共有されている。ただし、安全管理においては家庭・地域を優先させるべき事案もあり、今後も検討が必要である。</p> <p>「報・連・相」の成果は十分に出てきている。「まち comi メール」の効果も出てきている。</p>
--	---

評価領域：組織運営等の状況		
<項目：目標設定と自己評価の状況>		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3.5 (3.3)
評価委員 の意見	<p>各学校では、学校評価などを基に改善プランを作成し、改善しようとする姿勢が見受けられる。具体化されることでの意識付けは望ましいが、視点が細分化されすぎないように視野を広くもてる目標設定が望ましい。</p> <p>“中・短期”とのスパンはさておき、各校がそれぞれの目標をしっかりと設定していると感じた。重点目標は設定しているが、効果を上げるには長い時間がかかると思われる。</p>	
2	自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.7 (3.6)
評価委員 の意見	<p>自己評価を分析し、次年度へ生かそうとする意欲が感じられる。</p> <p>改善プランの設定も進んでいると考える。</p> <p>活用されていると感じた。</p> <p>十分に改善に活かされている。</p>	
3	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	3.6 (3.6)
評価委員 の意見	<p>あらゆる外部の意見を取り入れ、より地域に信頼される学校づくりを目指そうとする意欲が感じられる。</p> <p>アンケートや会議からの形式的な場からだけでなく、日頃のコミュニケーションからも広く意見を受け付ける環境作りを図っていく必要がある。</p> <p>参考とされていると思う。アンケートの回答すべてに敏感になりすぎないように。</p> <p>アンケート結果を十分活用している事が良くわかる。回収率はどの位か？</p> <p>【回収率：平均で約75%】</p>	

評価領域：組織運営等の状況		
<項目：学校関係者評価の状況>		
1	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3.7 (3.6)
評価委員 の意見	<p>学校関係者と学校側の信頼関係が保たれ、客観的に見直そうとする姿勢が感じられる。</p> <p>概ね実施されていると考える。</p> <p>高いレベルで実施されていると感じられる。</p> <p>評価会議を開催することは、生の声を聴く良い取り組みである。</p>	
2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.8 (3.4)
評価委員 の意見	<p>学校関係者評価を有効に活用しようとする意欲が感じられる。</p> <p>改善活用に活かされていると考える。</p> <p>高いレベルで実施されていると感じられる。</p> <p>様々な部分でうまく活用されている。</p>	

評価領域：組織運営等の状況 ＜項目：教育課程等の状況＞		
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3.4(3.2)
評価委員の意見	各種会議を踏まえ、共通理解を図りP D C Aに努めている。 学習指導要領については、教職員間という専門的な視点だけではなく、経済・社会・文化といった観点からの趣旨理解も図っていく必要がある。 教職員の取り組みに異論はない。現場の声を聴ける機会がほしい。 職員間の共通理解は大切なことである。多様な方法をうまく活用できることを願う。	
2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	3.7(3.5)
評価委員の意見	T Tや支援員が配置され、適切に運用されていると思われる。 実施については適当と考えるが、時間数が増えたことから、今後の行事日程などについては再考が求められてくると考える。 要求が高まる中、良く対応していると感じた。 T Tや支援員、時間講師の活用は大変有効である。	

評価領域：組織運営等の状況 ＜項目：授業の状況＞		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3.6(3.3)
評価委員の意見	各学校では創意工夫をこらし、可能な限り体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れている。 探究学習については、今後も内容やスキルを深めていく必要がある。 演劇や環境など地域特性を活かした内容が素晴らしい。 それぞれの学校の特性を生かした取り組みが行われている。	
2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3.5(3.0)
評価委員の意見	教育機器を効果的に取り入れ、効果的な授業を工夫している。 教科書だけでは理解の難しい児童・生徒に対して、このような視聴覚教材が有効であるという研究結果もあるため、活用の工夫や研究を今後も深めてもらいたい。 【改善方策：校内教職員による研修や市教研情報教育班、A L Tなどを中心に活用に関する情報交換、研修を積極的に進める】 積極的に活用されている。 今のところ、うまく活用されている。	

評価領域：組織運営等の状況 ＜項目：特別支援教育の状況＞		
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3.7(3.5)
評価委員の意見	個々の人間性や個性を的確に把握し、子どもに合った指導方法を工夫している。 適切に運営されています。今後は、発達障害教育に対する支援の必要性や周知による理解を深めていく必要がある。また、中学や高校になってからわかるようなボーダーのケースなどについて	

	<p>も対応していく必要がある。</p> <p>【改善方策：特別支援連携協議会や相談支援体制の強化を図り、関係機関との情報共有化による児童生徒の把握・理解に努めていく】</p> <p>充実した内容となっている。</p> <p>近年、多種多様な支援が必要となってきている。すべてをカバーすることは無理と思われるが、家庭での支援も必要と思う。</p> <p>【改善方策：家庭での支援をサポートするために、引き続き相談支援体制の強化を図っていく】</p>
--	--

<p><b>評価領域：組織運営等の状況</b></p> <p><b>&lt;項目：教職員の研修の状況&gt;</b></p>		
1	<p>授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか</p>	<p>3.8 (3.6)</p>
評価委員の意見	<p>教員のスキルアップを図るため、全教員が授業研究に取り組み、向上しようとする体制が確立している。</p> <p>&lt;教育課程等の状況&gt;とリンクする内容で、授業研究についても専門的な視野と同時に広い視野からの改善・研究が望ましい。</p> <p>【改善策：計画的に上川教育研修センターを始め道立教育研究所への派遣等、専門的な研修の場の提供を図る】</p> <p>意識が高く積極的である。</p> <p>各種研修会、公開授業をうまく活用している。</p>	

<p><b>評価領域：指導・管理の状況</b></p> <p><b>&lt;項目：生徒指導&gt;</b></p>		
1	<p>生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか</p>	<p>3.8 (3.6)</p>
評価委員の意見	<p>教育相談も大切ですが、休み時間や放課後の行動も観察することが大切と思われます。有効に実施されています。</p> <p>指導内容が多様化する中、しっかりと実施されている。</p> <p>個人的には年3回は行ってほしい。特に、長期休業明けは様子が変わりやすいので。</p> <p>【改善方策：各学校では定期的に教育相談を行っているが、児童生徒の小さな変化を見逃さないように、引き続き全教職員を始め親と子の相談員、スクールカウンセラー等で共通理解を図っていく】</p>	
2	<p>スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか</p>	<p>3.2 (2.9)</p>
評価委員の意見	<p>スクールカウンセラーの存在を知らない学校があることは遺憾です。しっかり周知する必要があります。</p> <p>【改善方策：スクールカウンセラーなどの活用は個別相談のみならず、校内研修においても積極的に活用を促していく】</p> <p>活用している学校とそうでない学校の間意識の差が生じないように、Q-Uの活用時にはアドバイスを受けるなど日頃からの連携が必要である。</p> <p>人材発掘など難しい問題もあるかと思う。</p> <p>様々なケースがある様だが、学校で解決できるケースも多い様である。気軽に相談できる場所としてうまく活用してほしい。</p>	

<b>評価領域：指導・管理の状況</b>		
<b>&lt;項目：児童生徒の人格的発達の状況&gt;</b>		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3.5 (3.1)
評価委員の意見	各学校で豊かな人間性を構築するための道徳の授業に力を入れている努力がうかがえる。 <教育課程等の状況> や<教職員の研修の状況> とリンクする内容であるが、探究学習や広い視野からの学習内容の導入と併行して行っていくことであると考え。 積極的な取り組みに可能性を感じた。 十分な指導が行われていると思う。成果が表れるには時間がかかる。	

<b>評価領域：指導・管理の状況</b>		
<b>&lt;項目：保健管理の状況&gt;</b>		
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3.6 (3.5)
評価委員の意見	養護教諭を中心に、全教職員による健康観察に努めている様子がうかがえる。 食物アレルギーに対する対策や救急対応に関する研修など、日々課題が生じている事項であるため、つねに情報共有をしていく必要がある。 適切に実施されており、効果も出ていると感じた。 近年、アレルギーの子どもたちが増えている。児童生徒の自己管理向上は今後の課題でもある。 【改善方策：食物アレルギーは命にかかわる場合もあることから、保護者等とも連携を密にして安全で安心して楽しく給食ができるよう努めていく】	

<b>評価領域：指導・管理の状況</b>		
<b>&lt;項目：安全管理&gt;</b>		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3.3 (3.1)
評価委員の意見	危機管理マニュアル作成に課題があるように感じる。様々な非常事態への対応が不十分と思われる。 食物アレルギーや救急等にも対応できるよう、日々運用されチェックしていくものになっているものが望ましい。 【改善方策：様々な非常事態への対応に向けて危機管理マニュアルの見直しを全校で行うとともに、食中毒等の事故発生時においても連絡系統図に従い、万全を期す体制を構築する】 危機管理は地域や家庭での意識づけが必須であり、連携を深めていきたい。 児童生徒の自己の危機管理意識の向上が必要と思われる。	

<b>評価領域：指導・管理の状況</b>		
<b>&lt;項目：進路指導（キャリア教育）の状況&gt;</b>		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3.2 (2.8)
評価委員の意見	各学校では創意工夫されている。ただ、教職員に十分理解されていない現実が課題である。 評価自体は低い。改善、指導の努力がみられる。 発展途上の分野であり、永遠のテーマである。地域と家庭を巻き込んでの取り組みが必要である。 じっくり見守りたい。	



	各学校で工夫をして取り組んでいると思われる。 【改善方策：キャリア教育推進に当たり、事前・事後研修の徹底を図りながら、「何を学ぶのか」という目的意識を明確にし、将来設計能力に結びつくような生きる力を育む】
--	---

<b>評価領域：家庭と地域との連携協力の状況</b>		
<b>&lt;項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況&gt;</b>		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3.3(3.1)
評価委員の意見	各種行事等を中心に、児童生徒や保護者の意見を検討していると思われる。 <目標設定と自己評価の状況>の3と同様、アンケート等からの形式的な意見集約だけでなく、日々のコミュニケーションの中からの環境づくりに努める必要がある。 真剣に取り組んでいると感じた。 適切に取り組んでいると思われる。ただ、保護者の意見で本質がぶれないことを願う。	

<b>評価領域：家庭と地域との連携協力の状況</b>		
<b>&lt;項目：学校に関する情報提供&gt;</b>		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3.5(3.5)
評価委員の意見	各種お便りを定期的に発信し、情報を提供していることは好ましい。 適切な運用がされていると考える。 積極的な取り組みがなされていると感じた。 うまく伝わっている様に思う。	
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか	3.2(2.7)
評価委員の意見	創意工夫し努力している。 評価は低い、一定の運用・取組みはされていると考える。 ホームページの活用と個人情報の保護のバランスは難しいと思う。 ホームページを更新していない学校もある。ホームページをうまく活用してほしい。 【改善方策：ホームページの積極的な活用に努めていく】	

<b>評価領域：家庭と地域との連携協力の状況</b>		
<b>&lt;項目：保護者・地域社会との連携の状況&gt;</b>		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3.8(3.5)
評価委員の意見	地元の人材や他の機関に働きかけ、外部講師を積極的に活用していることは好ましい。 一定の評価はあると考える。しかし、地域の教育資源というのは、日々の見守りや読み聞かせといった地道な地域との密着からが連携の第一歩という認識が必要であると考え。 このエリアの良さをさらに活用して子どもたちに伝えてほしい。 少ない時間をうまく工夫して取り組んでいると思う。 【改善方策：引き続き、学校支援ボランティア等地元の人材を活用しながら学校運営に活かしていく】	

評価基準 4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる  
2：実践につとめている 1：努力を要する



## 教育行政評価委員会の開催について

### 1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は委員4名を委嘱し、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第2項の規定及び教育行政評価委員会設置要綱に基づき、富良野市学校第三者評価を行うために、教育行政評価委員会を5回開催いたしました。

教育行政評価委員会では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価54事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質問・意見項目を基に意見交換を行いました。

また、学校第三者評価を実施するために、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立樹海小学校及び市立樹海中学校の学校訪問を行い校長・教頭との意見交換、授業参観を行いました。さらに校長会会長・副会長、学校教育指導委員会委員長との意見交換を行いました。

- 1) 第1回会議 5月21日(火)開催  
教育委員会事務事業点検・評価シートの説明  
教育委員会の活動点検・評価の説明  
学校自己評価、学校関係者評価集約結果の説明
- 2) 第2回会議 6月26日(水)開催  
事務事業点検・評価に対する質疑、意見交換  
学校第三者評価項目に対する自己評価の集約結果説明
- 3) 第3回会議 7月22日(月)開催  
学校訪問～市立樹海小学校、市立樹海中学校
- 4) 第4回会議 8月5日(月)開催  
学校訪問における感想・質疑、意見交換  
校長会長・副会長、学校教育指導委員会委員長との意見交換
- 5) 第5回会議 8月20日(火)開催  
学校第三者評価のまとめについて  
平成24年度富良野市教育行政評価報告書【事務事業点検・評価及び学校第三者評価】(案)に対する最終意見交換

## 2、教育行政評価委員会における意見

「教育委員会事務事業点検・評価」については、第5次富良野市総合計画前期基本計画第1章「基本目標1 時代を担う子どもたちをみんなで育むまちづくり」、第2章「基本目標2 やさしさと生きがいを実感できるまちづくり」の視点、並びに「平成24年度富良野市教育推進の重点」に基づいた平成24年度実施の事務事業のうち54事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し説明を行った。各委員からは8項目、11件の質問・意見が出され、担当課からの回答、教育長との意見交換を経て、総体的に実践が進み期待どおりの効果が出ているとの意見が出されていました。

「学校第三者評価」は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長及び学校教育指導委員会委員長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

### 1) 教育委員会の活動状況

近年、地方分権の進展とともに教育制度改革により、教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが大切です。

教育委員の学校訪問においては、子どもたちや教職員と実際にふれあい、生の声を聴くことは大切なことであり、各学校の特徴や抱えている課題等を把握、対応することが期待されています。

なお、教育委員会議は透明性を重視し公開で開催（一部非公開）しており、内容は市ホームページにおいて公表をしています。

### 2) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は、学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市学校教育中期計画」を学校教育の指針として教育活動計画等に適切に位置づけをし、毎年の検証・評価を経て教育活動を改善しています。

今後、全体的な課題として、全ての児童生徒に学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実させ、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要です。

そのために、平成23年度より地域の方々や校内外の教職員に対し、積極的に授業公開を行い、地域に開かれた学校づくりを進めており、教員の授業研究・改善を図りながら、「分かる、楽しい」授業に重点を置き、教育方法等の改善に取り組んでいます。今後も地域の人材、教育資源や学校支援ボランティアなど地域

の教育力を積極的に活用する必要があります。

また、中高等学校経営連絡協議会の取り組みにより中学校と高校の連携が図られ、さらに小学校へも情報提供を行っています。中学校・高等学校という枠を超え、「地域ぐるみ」で学力を向上させるための具体的取組として、「学力向上プロジェクトチーム」を組織し、授業公開や研究公開での中高相互交流が着実に推進されていることは明るい兆しであり、今後も小学校から高等学校まで一層の連携を図る必要があります。

さらに、食育の推進に向けて、各学校における指導体制を推進するために、栄養教諭と養護教諭の一層の連携を図り取組むとともに、家庭での食育啓発も推進する必要があります。

### 3) 社会教育について

社会教育及びスポーツの振興に関する推進は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき推進されており、事業内容も「青年活動活性化事業(青年塾)」や「子ども未来づくりフォーラム」、「学社融合推進事業(学校支援ボランティア)」、「子どもスキー技術向上支援事業」、「読書活動推進事業」を始めとして高く評価されています。特に、学社融合事業を始め学校支援ボランティア活動、読書活動、PTA活動など、学校教育と社会教育が連携を密にしたことにより、3年連続の文部科学大臣表彰を受賞したことは教育行政推進の成果であります。

今後とも市民ニーズに適切に対応し、生涯学習の観点に立った事業及び施設運営を図る必要があります。

なお、自主的グループの衰退が見受けられるので、社会教育関係団体の育成について検討する必要があります。

### 4) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けをしたり、教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」づくりを目指すものであります。

教職員及び学校関係者において学校関係者評価の目的、目指すべき成果を共通理解し、評価後は学校にフィードバックして、より良い「開かれた学校」づくりのために教育委員会としても教育施策の貴重な資料として活用する必要があります。

5) 校長会会長・副会長及び学校教育指導委員会委員長との意見交換

異校種間連携について、特別支援教育においては保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校において連携が図られ、市教育委員会主催の高等学校説明会には小学校保護者も参加するなど、連携の取組み成果が表れています。

また、富良野市PTA連合会とも連携を密に定期的に教育懇談会を開催し、各学校での成果と課題を明らかにしながら情報を適切に共有していることは大変良いことであると共に、家庭の約束7カ条を市P連独自で推進することで、家庭内での生活習慣改善に結びつき効果が上がってきています。

さらに、道德教育を全校で公開するなど道德教育に積極的に取り組んでいることは大変素晴らしいことです。

今後、携帯電話・スマートフォンなどによるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）への対応が新たな課題と思われます。情報端末機器の取扱指導、約束事は学校だけに任せるべきではなく、家庭におけるルールづくりを保護者と子どもとの合意形成により真剣に対応することも必要であります。

## 資料：1

## 富良野市教育行政評価委員会設置要綱

## (設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条に基づき、富良野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法(昭和22年法律第26号)第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則(昭和56年教育委員会規則第2号)第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会(以下、「委員会」という。)を設置する。

## (所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

## (構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

## (任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度までとする。

## (運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

## (庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

## 附 則

1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

## 附 則

1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

## 資料：2

## 教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	瀬 川 謙二郎	ふらの演劇工房理事長
委員	品 田 靖 恵	図書館ボランティア
委員	千 財 篤 昭	前市PTA連合会長

## 資料：3

## 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

改正 平成19年6月27日法律98号(施行 平成20年4月1日)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



## 資料：4

## 平成24年度 教育行政執行方針

平成24年第1回富良野市議会定例会にあたり、教育行政に関する執行方針を申し上げます。

市議会をはじめ市民の皆様のご理解とご協力を頂き、関係部局・機関団体との連携を深め、地域に根ざした実効性のある教育施策を進めてまいりたいと存じます。

教育は人格の完成を目指し、個性を尊重しつつ個人の有する能力を伸ばし、自立的に生きる基礎を培うことを目的として行われるものであり、次代を担う子ども達にとって、自ら学び自ら考える力の育成や学力の基礎・基本の確実な定着と応用力・活用力の向上を図るとともに、他人を思いやる心、感動する心、命を大切に作る心、感謝の心、正義感や公正を重んずる心、さらには自己実現をめざした「生きる力」などを育むことが大切であります。

今日、少子高齢社会の到来や核家族化、国際化、高度情報化が進展する中で、地球環境問題、エネルギー問題など社会情勢が急激に変化し続けており、教育を取り巻く環境にも大きな影響を与えております。

こうした中、地域の教育力を高め、豊かな人間性を培うために、子ども達の学ぶ意欲や規範意識、道徳心、そして体力の向上など喫緊に対応することが重要であり、新しい時代を切り拓き積極果敢に築き上げていく気概を持った人材育成が強く求められております。

そのためには、『第5次富良野市総合計画』を基本とし、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた児童生徒の着実な育成を基本に据え、「すべては子ども達のために」を合言葉に、それを支える学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、相互に連携、協力しながら、子ども達の無限の可能性を伸ばす学校教育の充実に努めるとともに、学校と地域との連携・協力体制をより一層構築し、地域全体で学校を支え子ども達を健やかに育むことをめざすために、学校支援ボランティア活動などを中心に積極的な学校支援の取り組みを推進してまいります。

また、市民一人ひとりが心身ともに健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるように、その生涯にわたって、あらゆる機会や場所において学習することができ、その学んだ成果を適切に生かすことのできる環境づくりが必要であります。そうした生涯学習社会の構築をめざし、活力と潤いのある地

域社会を創造するための社会教育の推進及び芸術・文化、スポーツの充実並びに地域の活性化に重要な役割を果たす公民館・図書館・博物館などの教育活動を推進するとともに、社会教育を担う人材育成を図ってまいります。

さらに、教育行政及び学校教育の現状と課題を検証・評価し、今後の改善と展望を提示することを目的とした第三者評価委員による教育行政評価と学校評価を実施してまいります。

## 学校教育について

学校教育につきましては、『富良野市学校教育中期計画』に基づき、「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、全ての児童生徒が学力の基礎・基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけ、学習意欲を高め、主体的な学習態度を養い、個性を活かす教育を充実させ、確かな学力・人間性豊かな心を育む教育の推進に努めてまいります。

また、中学校において新学習指導要領が全面実施されるにあたり、昨年度『富良野市学校教育中期計画』の一部見直しを行い、「国際理解教育」、「環境教育」の2項目を追加し充実を図ってまいりました。本年度は、中学校の必修科目である武道、ダンス、音楽（和楽器など）などの本格実施に向けた各学校の特色ある授業の推進を図るとともに、年間総授業時数の確保に向けた対応を図ってまいります。

さらに、少子化による児童生徒数の減少により、学校の配置や規模の適正化などが課題であることから、「富良野市立小中学校適正規模及び適正配置に関する指針」に基づき、集団活動を通しての社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を整える観点と、地域における学校の役割や教育の公平性の確保など様々な角度からPTA及び地域住民と協議、検討してまいります。

学力の向上につきましては、「全国学力・学習状況調査」の結果を詳細に把握・分析した上で、学校改善プランを策定し学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりの推進、基礎・基本の徹底と学習意欲を高める教育の充実に努めるとともに、「地域に開かれた学校づくり」をめざすために、引き続き保護者や地域の方々に「研究授業」や「公開授業」を積極的に進めてまいります。

体力の向上につきましては、児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣などの状況を「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立ててまいります。

幼児教育につきましては、幼児期は人間形成の基礎を培い義務教育につなげ

る重要な時期でありますので、幼稚園・保育所と小学校との連携により円滑な就学支援を図ることを目的に、～育ちと学びの応援ファイル～「すくらむ ぶらの」を活用し、児童の心の問題や生活習慣などについて一貫した教育の実践に努めながら、子育て支援や幼児教育の充実に向け私立幼稚園就園奨励補助、預かり保育奨励補助、障がい児教育補助により、就園機会の拡充と保護者負担の軽減を図ってまいります。

心の教育につきましては、基本的な判断や行動、規範意識、倫理観、他人を思いやる心など、豊かな心を育てる教育を推進してまいります。

また、子どもと親の相談員や学校教育アドバイザー、スクールカウンセラーを引き続き配置し、大きな成果と実績を上げています教育相談やカウンセリングのさらなる充実を図り、心の問題をケアできる体制づくりによりきめ細やかな対応に努めてまいります。

学校の生活指導におきましては、いじめ・不登校などの問題行動や児童虐待などの未然防止と早期発見・早期対応に努め、特にいじめは児童生徒の心と体に大きな影響を及ぼすばかりではなく、教育の根幹にかかわる重大な問題であります。このため、不登校の児童生徒に対する適応指導教室を引き続き開設しながら、スクールソーシャルワーカーを兼ねた指導員を配置し、その根絶に向けて日常の気付きや学校・家庭・地域社会などとの連携により取り組んでまいります。

また、富良野市少年育成協議会におきましても、少年の健全な育成を目的として、学校、PTA、関係機関・団体が連携して情報を共有し、適切な対応に努めてまいります。

危機管理につきましては、学校内外での安全な生活環境づくりに努めるとともに、富良野警察署及び富良野消防署並びに子ども達の安全を守る団体・組織などとの連携を図りながら、学校への不審者侵入防止、登下校時の安全対策に向けて「こども110番の家」の拡充や防犯教室及び防災訓練の実施など学校における危機管理体制の徹底を図ってまいります。

特別支援教育につきましては、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るための特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し、支援体制の充実・強化に努めてまいります。

また、本年度は、特別支援教室42学級を設置し、扇山小学校に「ことばの教室」を継続開設するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために習熟度別指導教員、少人数指導教員及び特別支援教育支援員を継続配置しながら、特別支援連携協議会を中核として、『富良野市特別支援教育マ

スタープラン』に基づき、専門家チームによる就学指導や就学相談などに向けて学校と関係機関との更なる連携強化を図ってまいります。

道徳教育につきましては、富良野ゆかりの講師陣による「心に響く道徳教育」を推進するとともに、学校や児童生徒の実態に応じた指導計画の工夫と指導体制の充実を図り、道徳的实践を高める教育を進めてまいります。

環境教育につきましては、小学3・4年生において副読本を活用し、「地球を守るためにできることは何か」をテーマに、環境保全に向けての廃棄物処理や本市の自然環境など、体験学習を進めてまいります。

また、「富良野自然塾」を利用しながら、自然や環境に対する関心などを培う教育の充実を図るとともに、新エネルギーである太陽光発電や学校ビオトープ（希望の森）の設置がなされた扇山小学校と鳥沼公園の恵まれた自然環境を活用した体験活動を推進している鳥沼小学校を、地域の特性を活かした環境教育実践校として位置づけるなど、各学校において継続して環境教育の調査研究を実践してまいります。

キャリア教育につきましては、児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を身に付けることができるよう「富良野市キャリア教育推進会議」が中心となって探究活動を重視し、学校と受入事業所などとの連携を深めながら発達に応じた勤労体験学習や職業体験学習の充実に努めてまいります。

小学校の副読本につきましては、平成20年度に作成した社会科副読本の改訂作業を進め、平成25年度からの改訂版導入を目指すとともに、外国語活動との連携を図り、英語版副読本の導入に向けた研究及び検討を進めてまいります。

食育教育につきましては、「子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、栄養教諭による子どもの発達段階に応じた食育教育を、養護教諭と連携を図りながら実践するとともに、学校、家庭、地域社会と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・家族そろって晩ごはん」運動を展開してまいります。

情報教育につきましては、携帯電話などインターネット上のトラブルが増加していることから、子ども達を守り安全、安心に利用するためにも情報モラル教育などの研修会を関係機関と連携しながら実施してまいります。

また、情報機器と施設整備につきましては、富良野西中学校、富良野東中学校の教育コンピューターの更新や校内LANの整備を図るとともに、電子黒板などのICT（情報通信技術）を活用した学習方法の工夫、充実に努めてまいります。

国際理解教育につきましては、小学校の外国語活動や中学校の英語指導の充実をめざす中で、日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために外国語



指導助手4名を小中学校に派遣し、英語力の向上に努めるとともに、本市独自の教材づくりと特色ある外国語教育の充実に向け調査研究に取り組んでまいります。

学校図書につきましては、学習に必要な図書を計画的に整備するとともに、市立図書館との連携によるブックトラック事業やブックフェスティバル事業、団体貸出を活用した「朝の一斉読書」、学校支援ボランティアの協力による「読み聞かせ会」など、児童生徒の読書活動を推進してまいります。

健康教育につきましては、家庭や地域の関係機関と連携し計画的な性教育、薬物乱用防止教育の推進を図るとともに、校内における健康相談体制の充実を学校医と連携しながら取り組んでまいります。

高等学校教育につきましては、中・高の相互連携による教育振興のために「富良野市中高等学校経営連絡協議会」を継続するとともに、市内中学校と高等学校との相互の授業参観交流と授業の指導工夫改善を図り、「中高学力向上プロジェクト」の設置による学力の向上に努めてまいります。

また、平成25年度には道立富良野高等学校において単位制が導入されることから、本市の特徴を活かした魅力ある高校づくりを北海道教育委員会と連携して取り組んでまいります。

さらに、就学資金の活用や高等学校バス通学費補助を実施し、高校教育機会の拡充と均等、保護者負担の軽減に努めてまいります。

学校教育施設の整備につきましては、本年度「富良野東中学校校舎耐震補強・大規模改造事業」及び「富良野東中学校屋内運動場改築事業」を実施するとともに、「富良野市立小中学校施設耐震化推進計画」及び「今後の市内小中学校の教育環境整備の在り方についての意見書」の趣旨を十分に尊重しながら、児童生徒の安全性、教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設の整備を進めてまいります。

## 社会教育について

社会教育につきましては、市民の多様化、高度化する学習ニーズに対応するとともに、心身ともに健康で充実した生活を営むために、「第6次社会教育中期計画」に基づき、生涯各期における自主的な学習活動に取り組むことができ、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会をめざして学習機会の提供や学習支援、団体育成などに努めてまいります。

家庭教育につきましては、人間形成の基礎を培う家庭の教育力を高めるとと

もに、親と子のふれあいや絆を深める事業などを引き続き開催してまいります。特に乳幼児期からの家庭教育を推進するために子育て支援センターなどの関係機関と連携し、家庭教育セミナーなどを開催するとともに、子どもの発達段階に合わせた「家庭教育ハンドブック」を引き続き作成、配布してまいります。

また、家庭教育の一環として、携帯電話やインターネットによる被害から子ども達を守るため、トラブル防止に関する小冊子の利用を図るとともに、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底などの啓発活動を継続してまいります。

少年教育につきましては、子ども会など各団体の活動支援に努めるとともに、公民館事業などを通して様々な体験学習活動や世代間交流活動を推進し、生きる力や豊かな人間性を育成してまいります。

また、放課後の子ども達の安全・安心な居場所づくりとして「放課後子ども教室」を山部地区、東山地区及び布礼別地区で引き続き開設するとともに、「学社融合推進事業」の推進並びに学校支援ボランティアや地域の教育力を活用しながら、地域全体で学校を支援し未来を担う子ども達を育む環境づくりをめざしてまいります。

さらに、日常生活で体験したことや子どもたちの考え、意見や発想を発表し表現する「少年の主張大会」や「子ども未来づくりフォーラム」を引き続き開催するとともに、少年非行などの未然防止につきましても青少年補導センターや生徒指導連絡協議会などの関係機関と連携しながら取り組み、次代を担う子ども達の健全育成を図ってまいります。

青年教育につきましては、青年活動の活性化並びに青年同士の出会いと交流の場としての「青年塾」を開設し、自らが取り組める実践活動を支援してまいります。

成人教育につきましては、市民のニーズに対応した学習機会の充実をはじめ、市民の学習活動に対する支援や社会教育関係団体の育成を図ってまいります。

高齢者教育につきましては、健康で生きがいと潤いのある充実した生活を支援するための学習の場として「ことぶき大学」を引き続き開設し、魅力あるカリキュラムによる学習内容の充実を図り、富良野校、山部校及び東山校の合同学習の推進を行うとともに、豊富な知識や経験を生かした地域活動への参加、ボランティア活動、世代間交流などの社会参加活動を推進してまいります。

芸術文化の振興につきましては、郷土に根ざした個性豊かな市民文化の創造をめざし、市民総合文化祭などを通して交流や発表の場の提供、市民の芸術文化活動への参加促進など自主的な文化活動を支援してまいります。

また、引き続き舞台芸術体験事業、演劇活動及び演劇鑑賞を通じて児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の育成と個性の創造を図ってまいります。



さらに、指定管理者との連携を図り、「ふらの演劇祭」や「舞台塾ふらの事業」などを継続し、富良野演劇工場を核とした演劇文化の発信及び発展に努めてまいります。

スポーツの推進につきましては、自然や地域の特性を活かした生涯スポーツの推進を図り、身近にスポーツに親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

また、競技スポーツと人材育成につきましては、NPO法人ふらの体育協会を中心として各種スポーツの競技力の向上をめざし、指導者養成やアスリートの育成・派遣・強化に努めるとともに、9年目になります「第25回全国高等学校選抜スキー大会」や「第45回北海道中学校スキー大会」など各種スポーツ大会の開催を支援してまいります。

さらに、スポーツ国際交流事業として「少年野球国際交流事業」を継続実施するとともに、子ども達のスキー技術向上並びに冬期間における健康・体力づくりを目的とした「子どもスキー技術向上支援事業」を引き続き実施してまいります。

文化財の保護につきましては、郷土の歴史や文化の発展の礎をなすものであり、市民共有の財産として保護、啓蒙・普及活動を推進し、市指定文化財の富良野獅子舞をはじめ山部獅子舞、富良野弥栄太鼓などの郷土芸能の育成に努めてまいります。

また、昨年度から引き続き古い歴史的建造物を調査し、その成果を郷土の歴史・文化を知る基礎資料として活用してまいります。

生涯学習センターにつきましては、体験交流を基調に市民の高度化・多様化するニーズに対応する学習機会の充実を図ってまいります。

また、博物館では特別展・講座・講演会の開催などをはじめ、自然体験学習や観察会、学校への学習指導・協力などを通して、郷土の歴史・自然・文化などの理解を深める取り組みを推進するとともに、博物館資料を生きた教材として活用してもらうように学校や福祉施設などへの貸出しを実施してまいります。

さらに、太陽の里においては、今後ともホテルが生息できる環境づくりに努めるとともに、自然環境教育の学習の場として活用を図ってまいります。

図書館につきましては、利用者のニーズに適応した図書及び図書資料の充実を図り、市民に役立つ幅広い情報収集・提供に努めてまいります。

子どもの読書推進につきましては、乳幼児期からの家庭における読書活動の動機づけに効果が期待できる「ブックスタート」の継続実施、読書に親しむ機会として「こども図書館まつり」や「おはなし会」の開催、学校における読書活動支援として「ブックフェスティバル」の開催や団体貸出図書の充実など、

読書ボランティアの協力と連携による読書環境の一層の向上を図ってまいります。

また、利用が増えている高齢者などへのサービスとして、録音図書や大活字本などの充実を図ってまいります。

さらに、市民参加による親しまれる図書館づくりをめざして、利用サークルや図書館ボランティアなどと連携した「図書館まつり」の開催をはじめ、企画展・作品展・講演会など多彩な事業の実施による交流の場の創出を図ってまいります。

以上、平成24年度の教育行政執行方針について申し上げましたが、執行にあたりましては、より一層開かれた教育行政をめざして、教育行政に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を引き続き実施し、効果的な教育行政を推進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

## 資料：5

## 平成 24 年度 富良野市教育委員会 重点事項

～すべては子どもたちのために～

## &lt; 基本理念 &gt;

「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む（富良野市学校教育中期計画）」

## &lt; 重点方針 &gt;

全ての児童生徒に学力の基礎基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高め、主体的な学習態度を養い、子どもの個性を生かす教育を充実し、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価を計画的に実施する。

また、新しい学習指導要領が小中学校において全面実施となり、知育・徳育・体育の調和のとれた子どもを育成するため「わかる喜び、できる楽しさを実感できる授業を目指し」ながら、国際理解教育、情報教育、環境教育、食育教育、キャリア教育等の充実を図るとともに、「富良野市子ども読書推進プラン」による読書活動や運動能力を高めるためのスキー授業の充実を図る。

## &lt; 重点課題 &gt;

- 1 富良野市学校教育中期計画（平成 20 年度～平成 24 年度）の評価及び次期中期計画の作成に向けた検討を実施する。
- 2 第三者評価委員会（教育行政評価、学校評価）の継続と充実に向けて、教育行政及び学校教育の現状と課題の検証・評価をもとに改善を図り、今後の展望を提示していく。
- 3 本市の地域環境と地域人材を生かした環境教育を充実する。
- 4 食は健康の源、食育は最善の予防医学との認識のもと、食育ガイドラインを基本として食育教育を推進する。
- 5 富良野東中学校校舎の大規模改修及び屋内運動場の改築を進めるとともに、東小学校校舎の改築に向けた設計委託を進め、教育環境の整備を図る。

## < 重点項目 >

### 1 特別支援教育について< 知育 >

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るべく、特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し、支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために、退職教員外部人材活用事業等の活用による時間講師(チームティーチング教員)の配置や、富良野小学校、扇山小学校に各3名、東小学校に2名、富良野東中学校に1名等、計10名の特別支援教育支援員を配置し、校内における支援の充実を図る。
- ・富良野市特別支援教育マスタープランに基づく、特別支援教育の改善と充実を積極的に推進する。
- ・引き続き、支援の必要な児童生徒のために学校と社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院と連携し、療育支援事業を実施するとともに、子ども理解からはじめる学習指導の徹底を図る(平成23年9月27日付け富教第558号通知)。
- ・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむふらの」の配布を受けて、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。  
こども発達支援協議会(こども未来課所管)を中心に沿線町村と連携し乳幼児期から社会人に至るまでのよりきめ細かな支援を推進する。

### 2 外国語活動について< 知育 >

- ・外国語指導助手(ALT)を小学校2名、中学校2名の計4名体制とするとともに、引き続き富良野市外国語活動推進委員会を設置し、推進体制や指導形態の工夫改善のため担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による外国語活動の推進体制を整備する。
- ・外国語活動の充実を図るため、本市独自の教材づくりについて先進的地域における調査研究を実施し、平成25年度からの活用と「英語の話せるふらのっ子」を目指す。

### 3 全国学力・学習状況調査等について< 知育 >

- ・調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、さらに学習改善の方策を具体化し、児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・「地域に開かれた学校づくり」「学校経営に対する理解」「教員の授業研究・授業改善」を図ることを目的として、地域の方々や校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、今後の授業や教育方法等の改善に取り組む(年2回程度の地域授業公開)。
- ・指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教

員外部人材活用事業による時間講師の配置や中学校指導方法工夫改善対応時間講師の配置によるティームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。

#### 4 学校評価について〈知育・情意・健康〉

- ・平成23年度に設置した第三者評価委員会を中心に、市教育委員会及び各小中学校の検証、評価、改善のサイクルを確立する。

#### 5 防災教育・危機管理について〈情意〉

- ・自然災害、事故、事件等の危機管理の徹底を図るとともに、富良野警察署や富良野広域連合消防本部と連携し、引き続き、各学校及び保護者を中心として、児童生徒の安全対策の充実を図る。
- ・また、富良野市少年育成協議会を中核に据え、各学校での実質的で組織的な危機管理体制の確立や子どもの虐待問題の解決等に取り組んでいくとともに、早期対応と関係機関同士の情報の共有を定期的に図る。
- ・更に、虐待問題に対しては、こども未来課等との連携強化を図り、対応していく。

#### 6 いじめ・不登校対策について〈情意〉

- ・未然防止、早期発見、早期対応を基本とする。
- ・引き続き、学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員(SSW)及び子どもと親の相談員(市内小学校に臨床心理士を配置)、スクールカウンセラーを配置し、子どもたちの居場所づくりに取り組む。

スクールカウンセラー(臨床心理士)等の配置について

- 1) 富良野東中学校、富良野西中学校、扇山小学校に松田剛先生を配置
- 2) 富良野小学校、東小学校に石黒三知子先生等を配置
- 3) 必要に応じて市内全校にて対応可能

#### 7 道徳教育について〈情意〉

- ・学校や児童生徒の実態に応じた指導計画の工夫と指導体制の充実を図り、道徳的实践力と道徳的实践を高める指導の充実を図る。
- ・富良野ゆかりの講師陣による心に響く道徳教育を推進する。

#### 8 心の教育について(演劇で培う心の教育)〈情意〉

- ・子どものための優れた舞台芸術体験事業を活用し、引き続き演劇活動や演劇鑑賞を通して、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の育成と個性の創出などを図る。
- ・コミュニケーション教育の推進を図るため、演劇を活用した教職員研修の充実を図る。



9 環境教育について<知育・情意・健康>

- ・「富良野自然塾」の活用など、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。
- ・鳥沼公園の恵まれた自然を活用した体験活動や豊かな情操を育む環境教育を推進している鳥沼小学校を地域の特色を生かした環境教育を推進する実践校として育てていくとともに、太陽光発電施設やビオトープ(希望の森)の設置がなされた扇山小学校を環境教育実践校と位置づけ、継続した調査研究を推進する。

10 食育について<健康>

- ・引き続き「子どもたちのための食育ガイドライン(指針)」に基づき、栄養教諭を確保するとともに、栄養教諭や養護教諭を中心とした、実践教育を推進し、学校給食の「食べ残しゼロ運動」や基本的な生活習慣である「早寝、早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん運動」を学校教育と社会教育が連携し推進する。

11 キャリア教育について<知育・情意>

- ・富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、新しい学習指導要領に基づく「なぜ学ぶのか」という基本的なキャリア教育の推進と充実を図る。
- ・各学校間の情報交流を積極的に進め、職業講話を取り入れる等内容の充実を図る。

12 社会科副読本等の改訂及び作成について<知育>

- ・平成 20 年度に作成した社会科副読本の改訂作業を進め、平成 25 年度からの改訂版導入を目指す。
- ・併せて、外国語活動との連携を図り、英語版副読本の導入に向けた研究及び検討を進め、小学校外国語活動の推進を図る。

13 市中高等学校経営連絡協議会について<知育>

- ・進路指導と生徒指導を中心に進めている市中高等学校経営連絡協議会において、引き続き学力向上に向けたプロジェクトを推進し、魅力ある学校づくり等を目指す。
- ・市内中学校と高等学校との相互の授業参観交流と授業の指導の工夫改善と連携強化を図る。
- ・地元高等学校への進学率 85%を目指す(目標:平成 27 年度)。

14 携帯電話、インターネット被害から子どもたちを守る運動等について<情意>

- ・引き続き、学校、家庭、PTA, 関係機関団体と連携を強化しながら、情報



モラル教育の徹底を図る。

- ・保護者へのアプローチ（参観日、出前講座、セミナー等）
- ・家族の約束7か条の推進とネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

15 子ども未来づくりフォーラムについて〈知育〉

- ・子どもたちの表現の場として、表現力、思考力、コミュニケーション能力を高めるために、「学習実践発表」「少年の主張」「まちづくりへの提言」の3部構成とし、内容の充実を図る。

16 放課後子ども教室の開設について〈情意〉

- ・子どもたちの安全・安心な居場所づくり事業として、山部地区、東山地区においては月曜日～金曜日に実施するほか、布礼別小学校においても内容の充実を図るとともに、地域との連携を図る。

17 アスリートの育成・強化について〈健康〉

- ・少年期からの競技スポーツの夢への挑戦と大きな舞台での試合経験を積み重ねるために「アスリート育成派遣費補助金」の継続及び充実を図る。
- ・スキー技術向上支援事業を継続実施し、子どもたちの基礎体力の強化に努める。

18 家庭教育について〈情意〉

- ・教育の原点は家庭教育であり、親と子のふれあいや絆を深める事業を推進しながら家庭教育に関する手引書を配布し、活用する。
- ・外国語活動指導助手による夏季休業期間、冬季休業期間に家庭教育セミナーを開催し「外国語活動の取組み」を推進する。

19 学校支援地域本部事業について〈知育・情意・健康〉

- ・心豊かで健やかに育む環境づくりに地域の教育力を活かし、地域全体で学校教育を支援する学社融合事業「学校支援地域本部事業」の更なる推進を図る（平成23年度「文部科学大臣表彰」受賞）。

20 学校における読書の推進について〈知育〉

- ・教育委員会各課、各学校、学校支援読み聞かせボランティア等と連携した取り組みを推進する。
- ・小学校新1年生の保護者に対する図書管理用登録の推進
- ・学校図書館のデータベース化
- ・読書推進ボランティア講座の開催
- ・ブックトラック事業の推進
- ・ブックフェスティバルの実施

- ・団体貸出の推進
- ・図書館施設見学や職業体験の積極的な受け入れ(図書管理用教育の推進)等

21 新学習指導要領への対応について

- ・中学校の必修科目である武道、ダンス、音楽(和楽器など)等の本格実施に合わせて、各校の特色ある授業の推進を図る。
- ・各学校における年間総授業時数の確保に向けた対応を図る。

22 学校施設等の整備について

- ・各学校に配置されたパソコン、テレビ、電子黒板などを活用した情報教育を推進するため、e教材作成ツール「dbook」の活用をはじめ、デジタル教材への対応を図る。

23 富良野市歴史的建造物調査事業について

- ・明治末期から昭和初期の歴史的建造物を調査し、その実態を把握・研究することによって、文化財としての基礎資料とする。道内研究者および沿線建築士会の協力を得て、調査の実施を実施するとともに(平成23年度~24年度)、平成25年度に調査結果報告書を作成する。
- ・対象物件：渡部医院、やまどり(旧河村合名酒造酒蔵)、島田邸、旧山本澱粉工場、東京大学北海道演習林麓郷森林資料館(旧東大演習林麓郷作業所)、古民家など

以上、平成24年度の基本理念、重点方針、重点課題、重点項目等を記載しましたが、教育は大転換期の時、これまで同様に組織(市教委、学校)が一枚岩となり、保護者への情報発信、説明責任などを行いながら、子どもたちの未来を力強く切り拓くための実践教育活動の推進に向け取り組んでいきましょう。

「教育は未来への遺産づくり」